

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第118期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	トピー工業株式会社
【英訳名】	TOPY INDUSTRIES, LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤井 康雄
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎一丁目2番2号
【電話番号】	03(3493)0777
【事務連絡者氏名】	執行役員総務部長 熊澤 智
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区大崎一丁目2番2号
【電話番号】	03(3493)0777
【事務連絡者氏名】	執行役員総務部長 熊澤 智
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪府中央区北浜一丁目8番16号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第114期 平成20年3月	第115期 平成21年3月	第116期 平成22年3月	第117期 平成23年3月	第118期 平成24年3月
売上高 (百万円)	296,629	290,333	196,848	221,413	240,534
経常利益 (百万円)	11,784	6,010	626	5,241	7,304
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	6,366	2,384	1,032	2,072	3,918
包括利益 (百万円)	-	-	-	340	4,459
純資産額 (百万円)	83,217	80,942	81,884	80,165	83,096
総資産額 (百万円)	231,887	202,995	201,138	203,956	212,828
1株当たり純資産額 (円)	371.40	334.16	337.53	335.16	347.37
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	28.90	10.39	4.30	8.64	16.52
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.3	39.6	40.3	39.0	38.7
自己資本利益率 (%)	7.7	2.9	1.3	2.6	4.8
株価収益率 (倍)	9.8	13.9	-	25.2	15.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	9,405	21,547	12,010	6,236	16,010
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	8,447	15,908	7,507	3,681	7,703
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,266	287	2,236	1,952	4,983
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	13,130	18,293	20,547	18,741	22,124
従業員数 (人)	4,133	4,125	4,242	4,151	4,135
[外、平均臨時雇用数]	[556]	[471]	[422]	[432]	[428]

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第114期 平成20年3月	第115期 平成21年3月	第116期 平成22年3月	第117期 平成23年3月	第118期 平成24年3月
売上高 (百万円)	201,666	195,883	117,524	149,510	161,788
経常利益又は経常損失 () (百万円)	5,714	3,496	2,104	3,925	6,452
当期純利益又は当期純損 失() (百万円)	3,140	984	2,288	2,167	1,780
資本金 (百万円)	18,093	20,983	20,983	20,983	20,983
発行済株式総数 (千株)	220,775	240,775	240,775	240,775	240,775
純資産額 (百万円)	61,642	61,927	60,983	60,578	61,129
総資産額 (百万円)	171,354	149,656	148,280	158,590	166,129
1株当たり純資産額 (円)	279.76	257.71	253.81	255.36	257.70
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当 額) (円)	8.00 (4.00)	5.00 (3.00)	2.00 (-)	4.00 (-)	4.00 (2.00)
1株当たり当期純利益金 額又は1株当たり当期純 損失金額() (円)	14.25	4.29	9.52	9.03	7.50
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	36.0	41.4	41.1	38.2	36.8
自己資本利益率 (%)	4.9	1.6	3.7	3.6	2.9
株価収益率 (倍)	19.8	33.6	-	24.1	34.3
配当性向 (%)	56.1	116.6	-	44.3	53.3
従業員数 (人)	2,272	2,049	2,038	1,923	1,911

(注) 1. 連結ベースの売上高及び提出会社の売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含めていません。

2. 連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額並びに提出会社の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第114期、第115期、第117期及び第118期は潜在株式が存在しないため、また、第116期は1株当たり当期純損失であり、かつ、潜在株式が存在しないため記載していません。

3. 連結ベースの株価収益率及び提出会社の株価収益率については、第116期は1株当たり当期純損失のため記載していません。

4. 提出会社の配当性向については、第116期は1株当たり当期純損失のため記載していません。

2【沿革】

トピー工業株式会社は、昭和39年7月に車輪工業株式会社、東都製鋼株式会社、東都造機株式会社及び東都鉄構株式会社の4社が合併し、トピー工業株式会社と商号を改め、現在に至っています。

- 大正10年10月 東京府下南葛飾郡大島町（現江東区大島）に宮製鋼所を設立（東都製鋼の前身）。
- 大正15年9月 東京市京橋区新佃島（現中央区佃）に東京シャリング株式会社設立（東都製鋼の前身）。
- 昭和9年12月 東京市蒲田区六郷に株式会社東京車輪製作所設立。
- 昭和15年8月 共進運輸株式会社（現トピー海運株式会社）設立。
- 昭和16年10月 株式会社東京車輪製作所と株式会社阿部鉄工所が合併、社名を車輪工業株式会社と変更。
- 昭和17年6月 明治38年に創立した北越水力電気株式会社の化学工業部門を継承し、北越電化工業株式会社（現北越メタル株式会社）を設立。
- 昭和18年10月 株式会社宮製鋼所と東京シャリング株式会社が合併、東都製鋼株式会社（東京製造所、スチール部門）が発足。
- 昭和22年3月 東都製鋼株式会社の鋼材指定問屋として、東京都港区に萩原商事株式会社（現トピー実業株式会社）を設立。
- 昭和24年5月 車輪工業株式会社及び東都製鋼株式会社、共に東京証券取引所に株式上場。
- 昭和24年6月 北越電化工業株式会社新潟証券取引所に上場。
- 昭和25年12月 萩原商事株式会社、東和鋼機株式会社に商号変更。
- 昭和28年1月 東都製鋼株式会社、大阪、名古屋両証券取引所に株式上場。
- 昭和30年7月 東京都品川区大井鮫洲町に東都造機株式会社設立。
- 昭和30年12月 東和鋼機株式会社、東都実業株式会社に商号変更。
- 昭和31年12月 東京都江東区南砂に東都鉄構株式会社（東京製造所、鉄構部門）設立。
- 昭和33年11月 愛知県豊橋市に東都製鋼株式会社豊橋製鋼所（現豊橋製造所）完成。
- 昭和36年1月 東都造機株式会社茅ヶ崎工場（現神奈川製造所）完成。
- 昭和36年11月 車輪工業株式会社豊川工場（現豊川製造所）完成。
- 昭和36年12月 車輪工業株式会社、東都製鋼株式会社、東都造機株式会社及び東都鉄構株式会社の本社を東京都千代田区四番町に移転。
- 昭和39年3月 車輪工業株式会社綾瀬工場（現綾瀬製造所）完成。
- 昭和39年7月 車輪工業株式会社、東都製鋼株式会社、東都造機株式会社及び東都鉄構株式会社の4社が合併、トピー工業株式会社として発足。
東都実業株式会社が、日本車輪販売株式会社の営業品目のうち自動車用部品の営業権を譲受け、トピー実業株式会社に商号変更。
- 昭和39年11月 北越電化工業株式会社、東邦製鋼株式会社と株式会社新潟製鋼所を合併し、社名を北越メタル株式会社に改称。
- 昭和47年5月 東京都江東区南砂に株式会社トピーレックを設立。
- 昭和48年9月 愛知県豊橋市に株式会社トージツを設立。
- 昭和49年4月 長野県松本市にトピーファスナー株式会社（現トピーファスナー工業株式会社）を設立。
- 昭和49年12月 共進運輸株式会社、トピー海運株式会社に商号変更。
- 昭和50年9月 東京都江東区に株式会社オートピアを設立。
- 昭和51年11月 福岡県京都郡苅田町に九州ホイール工業株式会社を設立。
- 昭和55年1月 トピーファスナー株式会社、トピーファスナー工業株式会社に商号変更。
- 昭和60年1月 アメリカ合衆国ケンタッキー州にトピーコーポレーション（現トピーアメリカ、INC.）を設立。
- 昭和62年11月 オランダ国アムステルダム市にトピーインターナショナル（ヨーロッパ）B.V.を設立。
- 昭和63年10月 アメリカ合衆国イリノイ州にトピープレジジョンMFG., INC.を設立。
- 平成3年1月 愛知県豊橋市に明海リサイクルセンター株式会社を設立。
- 平成6年11月 タイ国チョンブル県ドンファロムアン市にトピーファスナー（タイランド）LTD.を設立。

平成8年7月	愛知県豊橋市に明海発電株式会社を設立。
平成10年1月	トピー工業株式会社で国際品質保証規格ISO9001の認証取得を完了。
平成11年6月	トピー工業株式会社で国際環境マネジメントシステム規格ISO14001の認証取得を完了。
平成11年11月	アメリカ合衆国テネシー州にトピーインターナショナルU.C.A., I N C . (現トピーアメリカ, I N C .) を設立。
平成12年3月	北越メタル株式会社 東京証券取引所に移管。
平成14年10月	中華人民共和国山東省青島市に合弁会社青島トピー山推機械有限公司 (現青島トピー機械有限公司) を設立。
平成15年9月	中華人民共和国福建省福州市に福建源興トピー自動車零件有限公司 (現福建トピー自動車零件有限公司) を設立。
平成19年3月	トピーコーポレーションとトピーインターナショナルU.C.A., I N C . が合併しトピーアメリカ, I N C . に名称変更。
平成19年6月	本社を東京都品川区大崎に移転。
平成20年7月	愛知県豊橋市にトピー鉄構株式会社を分社化により設立。
平成20年9月	新日本製鐵株式會社との業務提携強化に合意。
平成22年4月	トピー鉄構株式会社と日鉄ブリッジ株式会社が合併し、日鉄トピーブリッジ株式会社を設立。
平成23年8月	中華人民共和国山東省青島市にトピー履帯 (中国) 有限公司を設立。
平成23年10月	ベトナム社会主義共和国フイエン省にトピーファスナー・ベトナムC O . , L T D . を設立。

3【事業の内容】

当社グループ（当社、子会社23社、関連会社4社及びその他の関係会社1社（平成24年3月31日現在）により構成）は、素材供給部門としての鉄鋼事業及び加工部門としての自動車・産業機械部品事業が、相互に関連を持ちながら素材の生産から最終製品の加工まで、一貫した生産体制を持つ金属加工の総合グループとなっています。

また、電力卸供給、屋内外サインシステム、合成マイカ、クローラーロボット、不動産の賃貸及びスポーツ施設の運営等、事業の多角化にも取り組んでいます。

各事業における当社グループの位置づけ等は次のとおりです。

なお、次の2部門は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げるセグメントの区分と同一です。

< 鉄鋼事業 >

当部門においては、電気炉による製鋼及び各種条鋼の圧延を行っています。

H形鋼、一般形鋼及び異形棒鋼は主に建設用資材として国内外に販売し、異形形鋼は主に自動車・産業機械部品事業部門に供給しています。

[主な関係会社]

トピー工業株式会社、トピー実業株式会社、トピー海運株式会社、株式会社トージツ、エヌイー・トージツ株式会社、明海リサイクルセンター株式会社

< 自動車・産業機械部品事業 >

当部門においては、自動車用スチールホイール、アルミホイール、建設機械用スチールホイール、自動車用プレス製品、工業用ファスナー及び産業機械部品の製造・販売を行っています。

国内自動車用・産業車両用及び建設機械用のホイールはトップメーカーとして、また欧米、アジアにおける国内外の自動車メーカーのグローバル調達に対応できる体制を有し、高い評価を得ています。

工業用ファスナー（精密薄板バネ他）は、自動車、家電、工業用機械等をはじめとし、IT分野への積極的な販売を展開しています。

また、産業機械部品事業は、ブルドーザー、パワーショベルの足回り部品及び排土板・バケット等の先端金具、モーターグレーダーの刃先等を製造・販売しています。熱処理・加工技術の評価の高い建設機械部品メーカーとして、国内では圧倒的なシェアを有しています。

[主な関係会社]

トピー工業株式会社、トピー実業株式会社、トピーファスナー工業株式会社、九州ホイール工業株式会社、株式会社オートピア、株式会社三和部品、トピーアメリカ、INC.、トピープレジジョンMFG.、INC.、トピーファスナー（タイランド）LTD.、青島トピー機械有限公司、福建トピー汽車零件有限公司、トピー履帯（中国）有限公司、トピーファスナー・ベトナムCO., LTD.

< その他 >

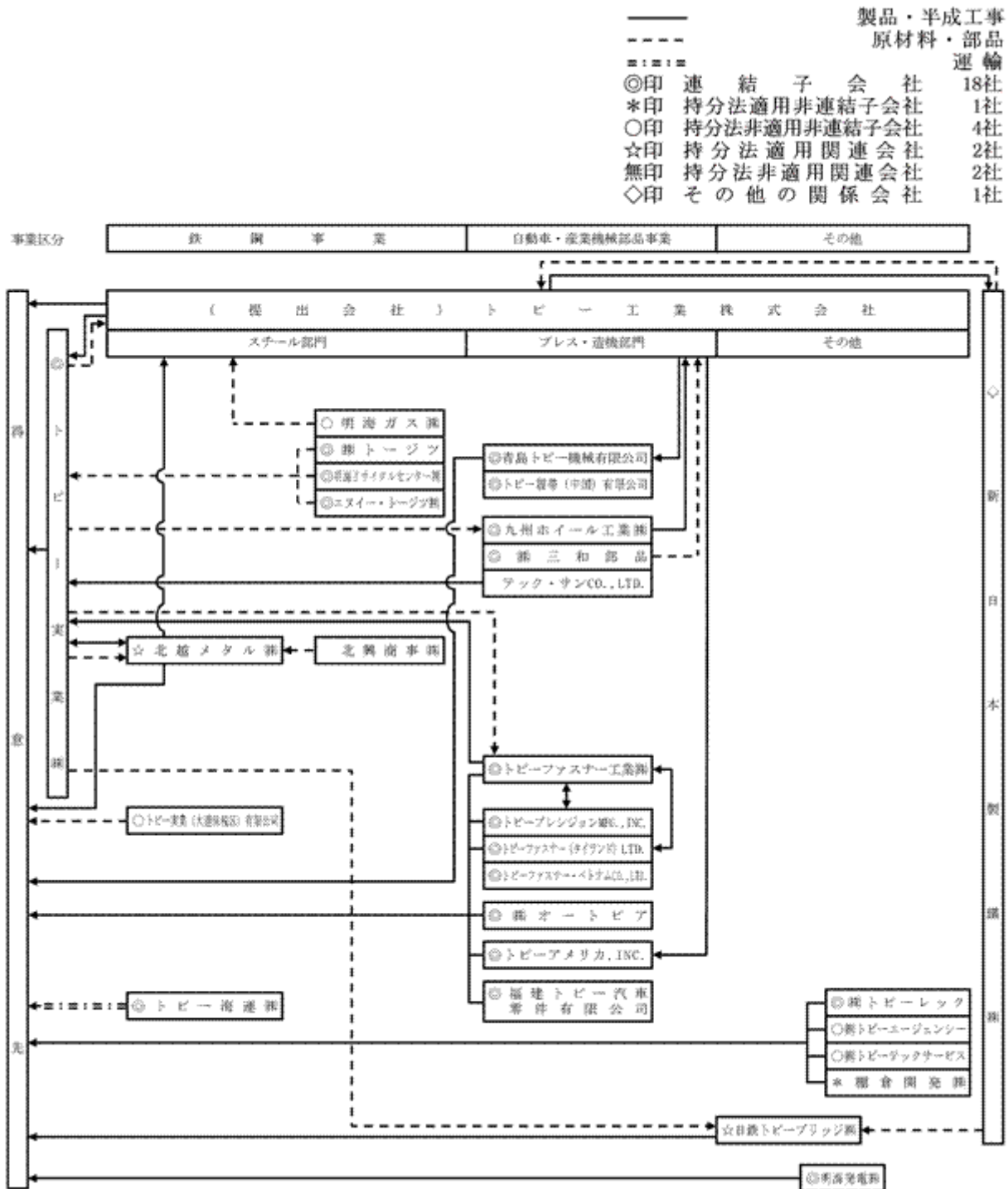
電力卸供給、屋内外サインシステム、合成マイカ、クローラーロボット、不動産の賃貸、スポーツ施設の運営及び金融サービス他を行っています。

なお、連結子会社であるトピーインターナショナル（ヨーロッパ）B.V.は、平成24年3月26日に清算決了しました。

[主な関係会社]

トピー工業株式会社、トピー実業株式会社、明海発電株式会社、株式会社トピーレック

事業系統図



(注) 連結子会社であるトビーインターナショナル(ヨーロッパ)B.V.は、平成24年3月26日に清算終了したため事業系統図から除きました。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権 の所有 割合又は被所有 割合 (%)	関係内容						
					役員の兼任			資金援助	営業上の 取引	設備の賃 貸借	その他
					会社名	役員 (人)	従業員 (人)				
(連結子会社) トピー実業(株)	東京都品川 区	480	鉄鋼、自動 車・産業機 械部品、そ の他	100	当社	-	2	なし	原材料の 当社への 販売及び 当社製品 の販売を しています。	当社が土 地・工場 ・設備を 賃貸して います。	なし
トピー海運(株)	愛知県豊橋 市	225	鉄鋼	100	当社	-	2	なし	当社製品 の運送及 び構内作 業を行っ ています。	当社が岸 壁荷役設 備を賃貸 しています。	なし
トピーファス ナー工業(株)	長野県松本 市	310	自動車・産 業機械部品	100	当社	-	1	なし	製品をト ピー実業 (株)に販 売してい ます。	なし	なし
(株)トピーレック	東京都江東 区	300	その他	100	当社	-	1	なし	なし	当社が土 地・設備 を賃貸し ていま す。	なし
九州ホイール工 業(株)	福岡県京都 郡苅田町	480	自動車・産 業機械部品	70	当社	1	1	なし	当社がホ イール製 品の製造 委託を 行ってい ます。	なし	なし
(株)トージツ	愛知県豊橋 市	80	鉄鋼	100 (100)	トピー 実業(株)	1	2	なし	商品をト ピー実業 (株)に販 売してい ます。	トピー実 業(株)が 事務所・ 工場を賃 貸してい ます。	なし
エヌイー・トー ジツ(株)	千葉県浦安 市	34	鉄鋼	100 (100)	トピー 実業(株)	1	2	なし	商品をト ピー実業 (株)に販 売してい ます。	なし	トピー実 業(株)が 借入債務 の保証を 行ってい ます。
(株)オートピア	東京都江東 区	30	自動車・産 業機械部品	100 (90)	トピー 実業(株)	1	1	なし	トピー実 業(株)が 商品を販 売してい ます。	トピー実 業(株)が 事務所・ 店舗を賃 貸してい ます。	トピー実 業(株)が 支払債務 の保証を 行ってい ます。
明海リサイクル センター(株)	愛知県豊橋 市	200	鉄鋼	100 (30)	当社 トピー 実業(株)	- -	3 1	トピー実 業(株)が 資金を貸 付してい ます。	商品をト ピー実業 (株)に販 売してい ます。	当社が土 地・工場 ・設備を 賃貸して います。	なし
(株)三和部品	茨城県坂東 市	200	自動車・産 業機械部品	100	当社	-	3	なし	製品を当 社に販売 してい ます。	当社が工 場・設備 を賃貸し ていま す。	なし

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権 の所有 割合又 は被所 有割合 (%)	関係内容						
					役員の兼任			資金援助	営業上の 取引	設備の賃 貸借	その他
					会社名	役員 (人)	従業員 (人)				
明海発電(株)	愛知県豊橋市	205	その他	100	当社	1	1	なし	なし	当社が土地を賃貸しています。	なし
トピーアメリカ, I N C .	アメリカ合衆国ケンタッキー州フランクフォート市	米ドル 600	自動車・産業機械部品	100	当社	2	3	なし	当社が金型の供給及び製品の販売をしています。	なし	なし
トピーインターナショナル(ヨーロッパ) B . V .	オランダ国アムステルダム市	ユーロ 453,780	その他	100	当社	-	3	なし	なし	なし	なし
トピープレジジョン M F G . , I N C .	アメリカ合衆国イリノイ州エルクグローブレッジ	米ドル 50,000	自動車・産業機械部品	100 (100)	トピーファスナー工業(株)	2	2	なし	トピーファスナー工業(株)の一部製品を販売しています。	なし	なし
トピーファスナー(タイランド) L T D .	タイ国チョンブリー県ドンファロムアン市	タイバーツ 50百万	自動車・産業機械部品	75 (40)	トピーファスナー工業(株)	2	2	なし	トピーファスナー工業(株)の一部製品を販売しています。	なし	なし
青島トピー機械有限公司	中華人民共和国山東省青島市	人民元 60百万	自動車・産業機械部品	95 (10)	当社	1	4	当社が資金を貸付しています。	当社が製品を販売をしています。	なし	当社が借入債務の保証を行っています。
福建トピー汽車零件有限公司	中華人民共和国福建省福州市	人民元 194百万	自動車・産業機械部品	100	当社	1	4	当社が資金を貸付しています。	当社が製品を販売しています。	なし	なし
トピー履帯(中国)有限公司	中華人民共和国山東省青島市	人民元 248百万	自動車・産業機械部品	100	当社	1	4	なし	なし	なし	なし
トピーファスナー・ベトナム C O . , L T D .	ベトナム社会主義共和国フイエン省	米ドル 6,240千	自動車・産業機械部品	100 (80)	当社トピーファスナー工業(株)	- 1	1 1	なし	なし	なし	なし
(持分法適用非連結子会社) 棚倉開発(株)	福島県東白川郡棚倉町	200	その他	100	当社	-	4	なし	なし	当社が事務所を賃借しています。	なし

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権 の所有 割合又 は被所 有割合 (%)	関係内容						
					役員の兼任			資金援助	営業上の 取引	設備の賃 貸借	その他
					会社名	役員 (人)	従業員 (人)				
(持分法適用 関連会社) 北越メタル株	新潟県長岡 市	1,969	鉄鋼	34.7 (1.3)	当社	1	1	なし	製品を当 社に販売 していま す。	なし	なし
日鉄トピー リッジ株	愛知県豊橋 市	450	その他	35	当社	-	1	なし	トピー実 業株から 原材料を 購入して います。	当社が土 地を賃貸 していま す。	なし
(その他の関係 会社) 新日本製鐵株	東京都千代 田区	419,524	鉄鋼製品等 の製造、販 売及びエン 지니어リン グ	0.1 (被所有) 20.5 (0.1)	-	-	-	なし	当社が原 材料の購 入及び製 品の販売 をしてい ます。	なし	業務提携

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しています。(その他の関係会社を除く)
2. トピーアメリカ, I N C . 及びトピープレジジョン M F G . , I N C . は上記資本金のほかに、それぞれ額面超過払込額62,999,400米ドル及び4,950,000米ドルがあり、資本の額は、それぞれ63,000,000米ドル及び5,000,000米ドルとなっています。
3. トピー実業株、トピーアメリカ, I N C . 、福建トピー汽車零件有限公司及びトピー履帯(中国)有限公司の4社は特定子会社に該当します。
4. 北越メタル株、新日本製鐵株は有価証券報告書を提出しています。
5. トピー実業株については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えています。
- 主要な損益情報等
- | | |
|-----------|------------|
| (1) 売上高 | 121,095百万円 |
| (2) 経常利益 | 1,380百万円 |
| (3) 当期純利益 | 519百万円 |
| (4) 純資産額 | 5,488百万円 |
| (5) 総資産額 | 45,536百万円 |
6. トピーインターナショナル(ヨーロッパ) B . V . は、平成24年3月26日に清算終了しました。
7. 「議決権の所有割合」欄の()は、間接所有割合で内数です。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
鉄鋼事業	946 [80]
自動車・産業機械部品事業	2,810 [315]
報告セグメント計	3,756 [395]
その他	194 [33]
全社(共通)	185 [0]
合計	4,135 [428]

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、役員、顧問、嘱託、臨時従業員は含めていません。
 2. 臨時従業員数は[]内に年間の平均人員を外数で記載しています。
 3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものです。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,911	38.5	16.3	5,869,647

セグメントの名称	従業員数(人)
鉄鋼事業	561
自動車・産業機械部品事業	1,123
報告セグメント計	1,684
その他	91
全社(共通)	136
合計	1,911

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、役員、顧問、嘱託、臨時従業員は含めていません。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。
 3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものです。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、以下の労働組合が組織されています。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

会社名	組合名称	組織人員(人)	上部加盟団体
トピー工業(株)	トピー工業労働組合	1,891	日本基幹産業労働組合連合会
トピー海運(株)	トピー海運労働組合他	157	日本港湾労働組合連合会他
トピーファスナー工業(株)	トピーファスナー工業労働組合	148	中信地区労働組合協議会
計		2,196	

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を受け急激に悪化したものの、サプライチェーンの復旧に伴い鉱工業生産や個人消費は緩やかに回復してまいりました。しかしながら、歴史的な円高の進展やタイの洪水被害、欧州債務危機の顕在化、新興国の成長の鈍化の影響により、期央より景気は不透明な状況となりました。

このような状況下、当社グループは、海外生産拠点における現地調達の拡大や需要に応じた生産体制の構築、生産性の向上等のコスト改善に取り組んでまいりました。さらに、継続的に需要拡大が見込まれる建機用足回り部品の履板や鉱山向け超大型ホイール、トラック用ホイール生産の最上流工程となる豊橋製造所（愛知県豊橋市）の製鋼設備の新鋭化を決定しました。また、拡大する海外市場への対応に取り組むべく履帯の中国第二の生産拠点であるトピー履帯（中国）有限公司（中国山東省）及び工業用ファスナーのベトナム生産工場のトピーファスナー・ベトナム・カンパニー・リミテッド（ベトナムフイエン省）を設立し、企業価値のさらなる向上に努めてまいりました。

その結果、日鉄トピーブリッジ株式会社の解散決定に伴う持分法投資損失が発生したものの、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高2,405億3千4百万円（前期比8.6%増）、営業利益105億5千4百万円（前期比50.6%増）、経常利益73億4百万円（前期比39.3%増）、当期純利益39億1千8百万円（前期比89.0%増）を計上することができました。

セグメントの業績は次のとおりです。

(鉄鋼事業)

鉄鋼業界は、造船、自動車等製造業向け国内需要や円高の影響を受けた輸出が低調に推移し、粗鋼生産量は前年度を下回りました。また、電炉業界においても、主要市場である土木・建築向け需要が引き続き低迷し、厳しい環境となりました。

このような状況下、当社グループは、輸出や建機用足回り部品の需要が落ち込んだものの、土木・建築向け鋼材の販売数量の確保に取り組むとともに、適正な販売価格の形成にも努めてまいりました。その結果、売上高は712億7千1百万円（前期比6.0%増）、営業利益は38億3千3百万円（前期比42.3%増）を計上することができました。

(自動車・産業機械部品事業)

建設機械業界は、中国需要が金融引き締めにより減退したものの、インフラ整備や資源開発等の海外需要に加え、国内での震災復興需要に支えられ、引き続き堅調に推移いたしました。また、自動車業界は、東日本大震災やタイ洪水被害を受けたサプライチェーンの急ピッチな復旧とともにエコカー補助等の効果が相俟って、国内生産台数は前年度を上回る水準まで回復いたしました。

このような状況下、当社グループは、鉱山向け超大型ホイールの販売が好調を維持するとともに、建機用足回り部品は中国需要が落ち込んだものの他地域の旺盛な需要により底堅く推移いたしました。自動車用ホイールにつきましては、期央からの自動車国内生産の持ち直しに伴い、トラック用を中心に需要が順調に回復いたしました。また、徹底的なコスト管理等のあらゆる改善諸施策に継続して取り組んでまいりました。その結果、売上高は1,540億3千1百万円（前期比10.8%増）、営業利益は103億9千2百万円（前期比35.5%増）を計上することができました。

(その他)

電力卸供給事業、屋内外サインシステム事業、化粧品等に使われる合成マイカの製造販売、LEDディスプレイ及びクローラーロボットの製作販売、土木・建築事業、「トビレックプラザ」（東京都江東区南砂）等の不動産賃貸、スポーツクラブ「OSSO」の運営等を行っております。売上高は152億3千2百万円、営業利益は8億1百万円を計上することができました。

(2)キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動の資金増加を投資活動の有形固定資産取得の支払い及び財務活動に充当し、当連結会計年度末には221億2千4百万円（前期比33億8千3百万円増）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益61億1千8百万円（前期比13億5千2百万円増）及び減価償却費93億1千万円（前期比7億4千7百万円減）に対し、売上債権、仕入債務及びたな卸資産を合わせた純営業取引22億5千8百万円の資金減少（前期比63億3千5百万円増）等により、160億1千万円の増加（前期比97億7千4百万円増）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金は、有形固定資産の取得による支出72億5千4百万円(前期比17億6千万円減)及び無形固定資産の取得による支出10億2千5百万円(前期比9億7千8百万円減)に対し、有形固定資産の売却による収入5億4千2百万円(前期比4億3千2百万円減)等より、77億3百万円の減少(前期比40億2千2百万円減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動による資金は、有利子負債の圧縮による支出36億1千1百万円(前期比30億1百万円減)等により、49億8千3百万円の減少(前期比30億3千万円減)となりました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比(%)
鉄鋼事業(百万円)	51,735	100.5
自動車・産業機械部品事業(百万円)	122,359	103.0
報告セグメント計(百万円)	174,094	102.3
その他(百万円)	9,064	112.4
合計(百万円)	183,159	102.7

(注) 上記金額には、消費税等は含めていません。

(2) 受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社)は見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比(%)
鉄鋼事業(百万円)	71,271	106.0
自動車・産業機械部品事業(百万円)	154,031	110.8
報告セグメント計(百万円)	225,302	109.2
その他(百万円)	15,232	100.3
合計(百万円)	240,534	108.6

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2. 上記金額には、消費税等は含めていません。

3【対処すべき課題】

(1) 当社グループの対処すべき課題について

今後のわが国経済の見通しにつきましては、震災復興需要の本格化や各種の政策効果等を背景に景気の持ち直し
が期待されるものの、欧州債務危機や原油高、海外景気の下振れ等により、予断を許さない状況が継続するものと思
われます。

このような経営環境下、当社グループは、海外市場への確実な事業展開と国内事業基盤の再構築を図り、企業価値
の一層の向上に努めてまいります。今後も、コーポレートメッセージ「One-piece Cycle」が表す「素材から製品ま
での一貫生産」の優位性を発揮し、トピー工業グループの一貫利益の追求とさらなる躍進を図ってまいります。

(2) 各事業セグメントにおける課題、対処方針及び取り組み状況について

(鉄鋼事業)

顧客ニーズを的確に捉え、新製品・高付加価値品の拡販に努めるとともに、本年9月の豊橋製造所酸素プラントの
稼働等により、引き続きコスト削減にも取り組んでまいります。また、新鋭製鋼設備の2015年稼働開始を目指し、着
実に建設を進めてまいります。

(自動車・産業機械部品事業)

「世界トップクラスの総合ホイールメーカー」としてのプレゼンスをさらに高めるとともに、「建設機械の総合
足回り部品メーカー」としての地位確立に邁進してまいります。さらに、厳しい事業環境下においても、利益を確保
できる体質とすべく、一層のコスト削減に努めてまいります。また、中国や東南アジアにおける生産拠点の拡充や海
外提携先との連携強化により、グローバルでの最適生産体制の構築に取り組んでまいります。

(その他)

発電事業につきましては、安定した稼働体制の維持に努めてまいります。マイカ事業につきましては、合成マイカ
の製造販売を行い、今後とも幅広い分野での実用化をめざしてまいります。サインシステム事業では、顧客ニーズに
対応したビジュアルの提供、広告効果を追求した新商品開発に努めてまいります。

また、新開発のクローラーロボット「サーベイランナー」が、福島第一原発の内部探査で成果を挙げております。
今後も高い機動性と信頼性が求められる移動型ロボット用足回りへのユーザーニーズに応え、あらゆる場面で人の
ために役立つロボットの実用化に貢献してまいります。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針について

1) 基本方針の内容の概要

当社は上場会社であるため、当社の株式は、株主・投資家の皆様によって自由に取引ができるものです。したが
いまして、当社は、当社の株式に対する大規模な買付行為につきましても、これを一概に否定するものではありません。
大規模な買付行為の提案に応じるべきか否かの判断は、当社の経営を誰に委ねるべきかという問題に関連
しますので、最終的には、個々の株主の皆様の自由な意思によってなされるべきであると考えます。

しかしながら、近年、わが国の資本市場においては、対象となる企業の経営陣との協議や合意のプロセスを経る
ことなく、いわば敵対的に、突如として一方的に大規模な株式の買付行為を強行するといった動きが顕在化しつ
つあります。このような一方的な大規模な買付行為の中には、株主の皆様に対して当該買付行為に関する十分な
情報が提供されず株主の皆様が株式の売却を事実上強要するおそれがあるものや、株主の皆様が当該買付行為の
条件・方法等について検討し、また、当社取締役会が代替案の提示等を行うために必要かつ十分な時間を確保す
ることができないもの、その他真摯に合理的な経営を行う意思が認められないもの等当社の企業価値ひいては株
主の皆様のご共同の利益を著しく損なう買付行為もあり得るものです。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業理念、当社の企業価値の様々な源泉及び
当社を支える各利害関係者との信頼関係を十分に理解した上で、当社の企業価値ひいては株主の皆様のご共同の利
益を中長期的に確保し、又は向上させることを真摯に目指す者でなければならぬと考えております。したが
いまして、上記のような当社の企業価値ひいては株主の皆様のご共同の利益を著しく損なう大規模な買付行為を行う
者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

2) 基本方針の実現に資する特別な取り組みの概要

当社は、多数の投資家の皆様にご中長期的に継続して当社に投資していただくため、当社の企業価値ひいては株
主の皆様のご共同の利益を向上させるための取り組みとして、下記 の企業価値の源泉を踏まえた企業価値向上へ
の取り組み及び下記 のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づくコーポレート・ガバナン
スの充実のための取り組みを実施しております。これらの取り組みの実施を通じて、当社の企業価値ひいては株
主の皆様のご共同の利益を向上させ、それを当社の株式の価値に適正に反映させていくことにより、上記のような
当社の企業価値ひいては株主の皆様のご共同の利益を著しく損なう大規模な買付行為は困難になるものと考えら
れ、これらの取り組みは、上記1) の基本方針に資するものであると考えております。

企業価値の源泉を踏まえた企業価値向上への取り組み

当社は、大正10年の創業以来、永年にわたり「鉄をつくり、鉄をこなす」をキーワードとして、独創的な技術を育ててまいりました。時代に応じて「鉄」に力強い生命を与え続け、現在では自動車用ホイール・建設機械足回り部品等複数の事業分野で世界トップレベルのシェアを有し、特色ある地位を確立しております。当社事業の最大の特色は、「素材から製品までの一貫生産」にあります。素材部門であるスチール事業部の製品を元に、加工部門であるプレス事業部及び造機事業部が独自の技術による高付加価値製品を生産しております。また、コア事業である金属加工以外の科学分野に挑戦するサイエンス事業部が、新たな収益の柱の創出に取り組んでおります。当社の企業価値の源泉は、それぞれの事業部門が培ったノウハウを複数の事業部門が共有することによってつくり上げた独創性あふれる技術・技能と、それをういた高付加価値製品にあります。そして、これら企業価値の源泉の根幹には、鉄を中心とする金属に関し創業以来蓄積してきた技術力・開発力、個々の従業員が有する経験・ノウハウとそれらを育み伝承する企業文化・経営方針、取引先をはじめとするステークホルダーからの厚い信頼等があります。

現在、当社を核とする当社グループの事業分野は、素材、モータリゼーション、国土開発・都市建設、電力、流通、スポーツ・レジャー、リサイクル、運輸、サービスと多岐にわたっており、人々の生活の様々な局面においてなくてはならない存在として、広く社会に貢献しております。「素材から製品までの一貫生産」にとどまらず、当社グループが社会と一体となって、よりよい社会のために、各事業分野において新しい動きを生み出す企業姿勢を表したコーポレートメッセージ「One-piece Cycle」を定め、事業活動を通じ、さらなる企業価値の向上に取り組んでおります。

当社は、これまで幾多の構造改革に取り組み、さらに長期的あるべき姿に向かって中長期連結経営計画を推進してまいりました。現在、激動する経営環境を踏まえた上で、新中期連結経営計画（2012年度～2015年度）に基づき、海外事業の拡充展開や国内事業基盤の再構築、グループ力強化に邁進してまいります。当社グループ一丸となって、価値ある企業で在り続けるよう取り組み、さらなる競争力強化と企業価値向上を図ってまいります。

以上のように、当社は、企業価値の向上に向けて継続的に諸施策等に取り組んでおります。今後も「トピー工業グループの存続と発展を通じて、広く社会の公器としての責務を果たし、内外の信頼を得る。」というグループ基本理念を礎に、顧客・ユーザーの満足を得られる高品質で価格競争力のある商品を提供することで、社会の発展に寄与し、また、適時・適切な情報開示、地域社会への貢献、地球環境問題への積極的な取り組み等を通じて、企業として社会的責任を果たしていくことにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を一層高めていきたいと考えております。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びコーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況につきましては、「第4 提出会社の状況 6 コーポレート・ガバナンスの状況等（1）コーポレート・ガバナンスの状況」をご参照下さい。

3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みの概要

当社は、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保し又は向上させることを目的として、いわゆる買収防衛策(以下「本対応方針」といいます。)を導入しております。

本対応方針の概要は、当社の株券等を20%以上取得しようとする大規模買付者に対して、大規模買付行為に関する必要な情報の事前の提供、取締役会によるその内容の評価・検討等に必要な時間の確保等、本対応方針に定める大規模買付ルールに従うことを求め、大規模買付者が大規模買付ルールに従わない場合や、大規模買付ルールに従っても当該大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうものであると明白に認められる場合に対抗措置を発動できるとするものです。

本対応方針の詳細につきましては、当社ホームページ掲載の平成22年5月21日付プレスリリース「当社の株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」（<http://www.topy.co.jp/files/default/1275871185.pdf>）及び平成24年6月28日付プレスリリース「当社の株式等の大規模買付行為に関する対応方針（買収防衛策）に基づく特別委員会委員の一部変更に関するお知らせ」（<http://www.topy.co.jp/files/default/1340779577.pdf>）をご覧ください。

4) 上記2)の取り組みについての取締役会の判断

当社は、多数の投資家の皆様の中長期的に継続して当社に投資していただくため、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を向上させるための取り組みとして、上記2)の取り組みを実施しております。上記2)の取り組みの実施を通じて、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を向上させ、それを当社の株式の価値に適正に反映させていくことにより、上記のような当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なう大規模な買付行為は困難になるものと考えられ、上記2)の取り組みは、上記1)の基本方針に資するものであると考えております。

したがって、上記2)の取り組みは上記1)の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

5) 上記3)の取り組みについての取締役会の判断

上記3)の取り組みは、十分な情報の提供と十分な検討等の時間の確保の要請に応じない大規模買付者及び当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を著しく損なうと明白に認められる大規模買付行為を行い又は行おうとする大規模買付者に対して、対抗措置を発動できることとしています。

したがいまして、上記3)の取り組みは、これらの大規模買付者による大規模買付行為を防止するものであり、上記1)の基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みであります。また、上記3)の取り組みは、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を確保し又は向上させることを目的として、大規模買付者に対して、当該大規模買付者が実施しようとする大規模買付行為に関する必要な情報の事前の提供及びその内容の評価・検討等に必要な時間の確保を求めるために実施されるものです。さらに、上記3)の取り組みにおいては、株主意思の重視(株主総会決議による導入、株主意思確認総会による発動及びサンセット条項(注))、合理的かつ客観的な対抗措置発動要件の設定、特別委員会の設置等の当社取締役会の恣意的な判断を排し、上記3)の取り組みの合理性を確保するための様々な制度及び手続が確保されているものであります。

したがいまして、上記3)の取り組みは上記1)の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

注 買収防衛策の導入後、定期的に株主総会の承認を確保する条項をいいます。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況などに影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成24年6月28日）現在において当社グループが判断したものです。

（1）経済状況の変化によるリスク

販売状況

当社グループの営業収入は、主に鉄鋼、自動車・産業機械部品で構成されています。自動車・産業機械部品の販売については、当社グループの製品を装着した完成車の販売に大きく影響を受け、さらにそれは完成車の様々な市場における経済状況の影響を受けます。同様に鉄鋼関連の製品の需要は、これを販売している国又は地域の経済状況の影響を受けます。

したがって、日本、北米、アジアという当社グループの主要市場における景気後退及びそれに伴う需要の縮小は、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

原材料調達

当社グループが消費する主要原材料である鋼材、鉄スクラップ、燃料などの価格は国際的な経済状況の動きを反映して、大幅に変動する可能性があります。

原材料が高騰し、かつ製品の適正な価格形成ができない場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

為替リスク

当社グループの事業には、日本から北米・アジア向けを中心とした輸出と、同地域における製品の生産・販売が含まれています。為替レートの変動は、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

金利の変動、有利子負債依存度

当社グループは、有利子負債の圧縮に努めておりますが、総資産に占める有利子負債の比率は依然として高い水準にあります。そのため有利子負債にかかる金利の変動により、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

資金調達

当社グループは、金融機関からの借入れを中心に資金調達を行っています。資金の調達コストは、金利や格付け機関による当社グループに対する評価の影響を受けます。金利上昇や当社グループの業績悪化などにより、高い金利での調達が余儀なくされたり、必要な資金が確保できなくなった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

（2）販売価格低下によるリスク

当社グループは、鉄鋼、自動車・産業機械部品という価格競争が極めて激しい市場において事業を展開しています。当社グループは購買面での努力、生産性の向上をもって利益の確保に努めてまいりますが、そうした努力を上回る価格低下が生じた場合、利益率の悪化が生じる恐れがあります。

（3）海外展開によるリスク

当社グループの生産・販売活動は、国内の他、従来から米国でも行われています。また近年の中国をはじめとしたアジア諸国の経済発展にともない、これらの地域でも、直接投資を実施し、生産販売活動を行っています。しかし、これらの海外への事業進出には、例えば、社会的・技術的インフラの未整備、予期しない法律又は規制の変更、不利な政治又は経済要因、人材の採用と確保の難しさ、といったいくつかのリスクが内在しています。

（4）新製品・新技術開発によるリスク

製造業である当社グループが、各事業分野で長期的に安定的な収益を上げていくためには、他社との競争環境の中で、技術面で確固たる地位を確立する必要があります。特に自動車・産業機械部品事業において、自動車の技術革新を背景とした、高度化する完成車メーカーの要請に的確に対応していかなばなりません。

当社グループが市場・顧客からの支持を獲得できる新製品又は新技術を的確に予測し、商品化できるかどうかに関してはリスクが内在しています。

（5）災害によるリスク

当社グループは、自然災害に備え連絡体制の整備や定期的な防災訓練の実施、建物の耐震補強など着実に施策を進めてまいりました。しかしながら、各事業所の周辺地域において大規模な地震、台風等の自然災害が発生した場合は、操業に支障が生じ業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

（6）製品の欠陥によるリスク

製品の安全性を最優先の課題として、日本国内及び事業展開する各国において認められている品質管理基準に従って製品を製造しています。当社グループは製造物に係る賠償責任については保険に加入していますが、保険でカバーされないリスクや、顧客の安全確保の為に大規模なリコールを実施した場合などに、多額のコストが発生するなど、当社グループの業績と財務状況に悪影響を与える可能性があります。

(7) 法的規制によるリスク

当社グループの事業活動は、国内及び海外各国においてさまざまな規制や、法令の適用を受けております。これらの法規制の変更等により当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、顧客・市場ニーズを先取りした画期的商品を他社に先駆けて提供するため、「顧客を起点とした新技術・新製品開発」を念頭に進めています。

当連結会計年度におけるグループの研究開発費は12億7千1百万円で、各セグメント別の研究目的・内容・成果及び研究開発費は次のとおりです。

(鉄鋼事業)

新形鋼製品や新鋼種開発を実施するとともに、圧延製品の品質向上及び廃棄物削減・リサイクルなどの環境改善に関する研究開発を進めています。

成果としては、新形鋼製品の受注、既存製品の原単位削減、廃棄物削減・リサイクルに関する技術開発を実現しました。

これらに関わる研究開発費は、2千9百万円です。

(自動車・産業機械部品事業)

軽量化・品質向上・コスト削減・開発期間短縮などに関する研究及び新商品開発に関する研究開発を進めています。

主力商品の自動車用スチールホイール及びアルミホイールについては、解析及び評価技術の精度向上、新商品の開発と量産化、既存製品のコスト低減と品質向上などに成果を上げることができました。

建設機械部品においては、超大型ホイールでタイヤ交換が迅速に行える新製品の開発や品質向上・コスト低減に関する研究を実施しました。

これらに関わる研究開発費は、5億4千1百万円です。

(その他)

上記事業以外の新分野における研究開発も産学連携などにより積極的に進めています。サイエンス事業部では、超薄型軽量LEDサイン、高意匠合成マイカの新商品開発を進めました。クローラーロボットは、各種ロボットの商品開発を進めました。また、研究開発センターでは、金属ガラスの溶射技術の用途開発を進めております。

これらに関わる研究開発費は、7億円です。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は、原則として連結財務諸表に基づいて分析したものです。

(1) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ88億7千1百万円増加して2,128億2千8百万円となりました。

これは主に、売上高の増加及び期末日が金融機関の休日であった影響による売上債権の増加94億1百万円等によるものです。

負債

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ59億4千万円増加して1,297億3千1百万円となりました。

これは主に、期末日が金融機関の休日であった影響による買入債務の増加57億8千9百万円等によるものです。

純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、29億3千1百万円増加して830億9千6百万円となりました。

これは主に、増益に伴う利益剰余金の増加24億9千4百万円等によるものです。

この結果、1株当たり純資産は、347.37円となり、自己資本比率は38.7%になりました。

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの概要については、前掲「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりです。

(2) 経営成績の分析

売上高

当連結会計年度の売上高は、復興需要に支えられ、191億2千1百万円増加の2,405億3千4百万円となりました。

営業利益

当連結会計年度の売上高増加とコスト改善諸施策の実施の結果、前連結会計年度に比べ35億4千7百万円増益の105億5千4百万円の営業利益となりました。

営業外損益

当連結会計年度の営業外損益は、日鉄トピーブリッジ株式会社の解散決定に伴う多額の持分法による投資損失の発生等による減益により、前連結会計年度に比べ14億8千5百万円の利益減少（純額）となりました。

特別損益

当連結会計年度の特別損益は、固定資産の除売却損の増加等により、前連結会計年度に比べ7億9百万円の利益減少（純額）となりました。

当期純利益

当期純利益は、前連結会計年度に比べ18億4千5百万円増益の39億1千8百万円となりました。

その結果、1株当たり当期純利益は、16.52円となりました。

なお、セグメント別の売上高及び営業利益の概要については、前掲「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりです。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における当社グループの設備投資等の概要は、長期的かつ安定的な事業展開と販売競争の激化に対処するための設備投資で、投資総額は89億8千2百万円となっています。

生産能力向上の設備投資を中心に、鉄鋼事業では投資総額25億2百万円、自動車・産業機械部品事業では投資総額58億9千3百万円となっています。

上記以外では、維持投資を中心に、投資総額5億8千5百万円となっています。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりです。

(1) 提出会社

(平成24年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
豊橋製造所 (愛知県 豊橋市)	鉄鋼事業	電気炉普通鋼 生産及び圧延 設備	7,930	12,657	3,139 (1,808)	0	445	24,174	730
	自動車・産業 機械部品事業	覆板生産設備							
	その他	合成マイカ生 産設備他							
豊川製造所 (愛知県 豊川市他)	自動車・産業 機械部品事業	ホイール生産 設備	1,387	2,038	1,507 (257)	-	152	5,085	387
綾瀬製造所 (神奈川県 綾瀬市他)	自動車・産業 機械部品事業	ホイール生産 設備	1,289	2,512	1,063 (133)	-	87	4,952	424
神奈川製造所 (神奈川県 茅ヶ崎市)	自動車・産業 機械部品事業	覆板・覆帯生 産及び組立設 備	568	1,182	167 (50)	-	63	1,981	208
本社他 (東京都 品川区他)	その他	賃貸設備他	4,281	120	4,220 (88)	-	57	8,680	162

(2) 国内子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人) <外、臨 時従業員 >	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
九州ホイール 工業㈱	(福岡県 京都郡 苅田町)	自動車・ 産業機械 部品事業	ホイール生産 設備	1,106	1,185	355 (29)	-	154	2,801	56 <5>
トピー実業㈱	東北営業部 他 (宮城県 仙台市 若林区他)	鉄鋼事業	鉄・非鉄屑の 流通販売設備	297	3	3,352 (32)	-	58	3,711	285 <19>
		自動車・ 産業機械 部品事業	自動車部品等 の卸売設備							
		その他	土木・建築材 料の販売、施 工管理設備、 賃貸設備等							
明海発電㈱	(愛知県 豊橋市)	その他	電力供給設備	1,480	2,594	-	-	3	4,078	32 <->

(3) 在外子会社

(平成24年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人) <外、臨時従業員 >	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
トピーアメリカ, INC.	(アメリカ 合衆国 ケンタッ キー州)	自動車・ 産業機械 部品事業	ホイール 生産設備	1,062	879	342 (348)	-	191	2,476	252 <22>

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品です。なお、金額には消費税等は含めていません。
2. 現在休止中の主要な設備はありません。
3. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	台数	リース期間	当期年間リース 料(百万円)
本社 (東京都品川区)	全社(共通)	汎用電子計算機 (ハード&ソフト)	一式	平成18年4月 ~平成26年1月	82

子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	台数	リース期間	当期年間リース 料(千ドル)
トピーアメリカ, INC.	(アメリカ合衆国 ケンタッキー州)	自動車・産業 機械部品事業	ディスク・ リムライン 設備他	一式	平成20年3月 ~平成30年3月	1,220

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画は、次のとおりです。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年 月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社 豊橋製造所	愛知県 豊橋市	鉄鋼事業	製鋼設備	28,000	-	自己資金 及び 借入金等	平成25年 3月	平成27年 4月	製鋼 約35% 増加
トピー履帯 (中国) 有限公司	中華人民 共和国青 島ハイテ ク産業開 発区	自動車・ 産業機械 部品	建設機械 用足回り 部品の製 造	5,990	2,335	自己資金 及び 借入金	平成23年 8月	平成24年 10月	履帯組立 約10% 増加

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	883,000,000
計	883,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	240,775,103	240,775,103	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部	単元株式数 1,000株
計	240,775,103	240,775,103	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年10月15日 (注)	20,000	240,775	2,890	20,983	2,890	18,528

(注) 有償第三者割当

発行価格 289円

資本組入額 144円50銭

割当先 新日本製鐵株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 1,000株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	45	39	200	111	4	11,524	11,923	-
所有株式数(単元)	-	93,482	872	64,135	21,987	17	59,159	239,652	1,123,103
所有株式数の割合(%)	-	39.01	0.36	26.76	9.17	0.01	24.69	100.00	-

(注) 1. 自己株式3,558,335株は、「個人その他」に3,558単元、「単元未満株式の状況」に335株を含めて記載しています。

2. 上記「その他法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれています。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
新日本製鐵株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号	48,182	20.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	16,724	6.94
明治安田生命保険相互会社(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(東京都中央区晴海一丁目8番12号)	9,751	4.04
トピーファンド	東京都品川区大崎一丁目2番2号	9,264	3.84
株式会社みずほコーポレート銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号(東京都中央区晴海一丁目8番12号)	7,878	3.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	6,793	2.82
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	5,909	2.45
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	5,746	2.38
トピー工業社員持株会	東京都品川区大崎一丁目2番2号	5,582	2.31
みずほ信託銀行株式会社(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号(東京都中央区晴海一丁目8番12号)	4,893	2.03
計	-	120,723	50.13

(注) 1. 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりです。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 16,724千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 6,793千株

2. トピーファンドは当社及び関係会社取引先持株会の名称です。

3. 株式会社みずほコーポレート銀行から、平成23年3月23日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成23年3月15日現在で株式会社みずほコーポレート銀行他計4名が17,535千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、株式会社みずほコーポレート銀行の大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	7,878	3.27
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	7,337	3.05
みずほ投信投資顧問株式会社	東京都港区三田三丁目5番27号	1,461	0.61
新光投信株式会社	東京都中央区日本橋一丁目17番10号	859	0.36
計	-	17,535	7.28

4. 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社から、平成23年11月7日付で提出された大量保有報告書の変更報告書により、平成23年10月31日現在で住友信託銀行株式会社他計4名が13,332千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株

主の状況には含めておりません。
なお、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社の大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
住友信託銀行株式会社	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号	9,281	3.85
中央三井アセット信託銀行株式会社	東京都港区芝三丁目23番1号	1,911	0.79
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	325	0.13
CMTBエクイティインベストメンツ株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	1,815	0.75
計	-	13,332	5.54

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,658,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 235,994,000	235,994	-
単元未満株式	普通株式 1,123,103	-	-
発行済株式総数	240,775,103	-	-
総株主の議決権	-	235,994	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれています。
2. 「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれています。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) トピー工業 株式会社	東京都品川区 大崎一丁目 2番2号	3,558,000	-	3,558,000	1.47
(相互保有株式) 北越メタル 株式会社	新潟県長岡市 蔵王三丁目 3番1号	100,000	-	100,000	0.04
計	-	3,658,000	-	3,658,000	1.51

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	16,895	3,690,805
当期間における取得自己株式	527	129,773

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれていません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受けるものの募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(単元未満株式の売渡請求による売渡)	730	176,076	-	-
保有自己株式数	3,558,335	-	3,558,862	-

(注) 1. 当期間における単元未満株式の売渡請求による売渡には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡請求による売渡株式及び処分価額は含まれていません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれていません。

3【配当政策】

当社は株主への利益還元、事業展開並びに企業体質の強化等を総合的に勘案し、安定して配当を継続することが重要であると考えています。

当社の利益配分に関する基本方針は、連結業績に応じた株主への利益還元と今後の事業展開並びに企業体質強化に向けた内部留保の充実です。内部留保につきましては、長期的かつ安定的な事業展開を図るための新規事業投資及び新技術・新製品の開発に充当し、企業体質・国際競争力の強化に努めます。連結業績に応じた利益還元の指標は、連結配当性向25%程度を目標といたしますが、安定的な配当継続にも十分な考慮を払ったうえで決定いたします。

配当の回数につきましては、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。また、決定機関につきましては、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」旨定款に定めています。

当連結会計年度の配当金につきましては、安定的な配当継続等を総合的に判断し、1株当たり年間4円（うち中間配当額2円）といたしました。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成23年11月4日 取締役会決議	474	2.0
平成24年5月22日 取締役会決議	474	2.0

4【株価の推移】

（1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第114期 平成20年3月	第115期 平成21年3月	第116期 平成22年3月	第117期 平成23年3月	第118期 平成24年3月
最高（円）	482	350	248	255	265
最低（円）	228	126	141	139	169

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）のものであります。

（2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高（円）	211	194	200	219	246	265
最低（円）	169	176	180	190	211	229

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）のものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		清水 良朗	昭和22年8月2日生	昭和46年4月 当社入社 平成10年6月 取締役経営企画部長 平成12年4月 常務取締役経営企画・関連会社に関する事項担当 平成13年6月 当社常務取締役退任 北越メタル株式会社代表取締役社長 平成15年6月 同社代表取締役社長退任 当社専務取締役営業統括に関する事項管掌 平成17年4月 代表取締役社長 平成23年6月 取締役会長(現任)	(注)4	83
取締役社長 (代表取締役)		藤井 康雄	昭和26年10月14日生	昭和52年4月 新日本製鐵株式会社入社 平成17年6月 同社取締役建材事業部堺製鐵所長 平成18年6月 同社執行役員建材事業部堺製鐵所長 平成19年4月 同社執行役員八幡製鐵所長 平成21年4月 同社常務執行役員君津製鐵所長 平成23年4月 同社執行役員 当社顧問 平成23年6月 代表取締役社長(現任)	(注)4	35
取締役副社長	経営企画、関係会社、財務、人事、労政に関する事項管掌	東 彰	昭和25年7月8日生	昭和50年4月 当社入社 平成12年4月 執行役員経営企画部長 平成15年6月 取締役経営企画・関連会社に関する事項担当、経営企画部長 平成18年4月 常務取締役経営企画・関連会社に関する事項担当、経営企画部長 平成19年6月 常務取締役経営企画・関係会社に関する事項、海外企画部担当、経営企画部長 平成22年4月 専務取締役経営企画、関係会社、財務に関する事項、海外企画部管掌 平成23年4月 取締役副社長(現任)	(注)4	47
専務取締役	総務、法務に関する事項、サイエンス事業部管掌、中部圏担当	荒井 隆司	昭和25年8月21日生	昭和48年4月 新日本製鐵株式会社入社 平成12年4月 同社関連会社部関連事業グループリーダー 平成14年4月 当社常任顧問 平成14年6月 取締役特命事項担当 平成15年4月 取締役総務・法務に関する事項担当 平成18年4月 常務取締役総務・法務に関する事項担当 平成22年4月 専務取締役(現任)	(注)4	45
専務取締役	海外企画、海外営業に関する事項管掌	金森 豊	昭和24年11月26日生	昭和50年4月 当社入社 平成15年4月 執行役員プレス事業部副事業部長 平成18年4月 執行役員トピーコーポレーション代表取締役会長 平成19年4月 執行役員トピーアメリカ,INC.代表取締役社長 平成20年4月 執行役員自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、プレス事業部長 平成20年6月 取締役自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、プレス事業部長 平成22年4月 常務取締役自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、プレス事業部長 平成23年4月 専務取締役(現任)	(注)4	39

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	技術、安全、品質、環境、技術研究、新事業開発に関する事項担当、技術統括部長	佐原 崇彦	昭和28年4月3日生	昭和51年4月 当社入社 平成20年4月 執行役員技術統括部技術研究所長 平成22年4月 執行役員技術、品質、環境、技術研究、新事業開発に関する事項担当、技術統括部長 平成22年6月 取締役技術、品質、環境、技術研究、新事業開発に関する事項担当、技術統括部長 平成23年4月 常務取締役（現任）	(注)4	61
取締役	自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、造機事業部長	望月 淳夫	昭和27年2月27日生	昭和52年4月 当社入社 平成19年4月 執行役員造機事業部副事業部長兼造機事業部神奈川製造所長 平成22年4月 執行役員自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、造機事業部長 青島トピー機械有限公司董事長（現任） 平成22年6月 取締役（現任） 平成23年8月 トピー履帯（中国）有限公司董事長（現任）	(注)4	30
取締役	人事、労政、安全（佐原常務を補佐）に関する事項担当、社員部長	金子 正好	昭和28年11月12日生	昭和52年4月 当社入社 平成15年4月 総務部長 平成19年4月 九州ホイール工業株式会社顧問 平成19年6月 同社常務取締役 平成20年4月 同社代表取締役社長 平成22年6月 同社代表取締役社長退任 当社取締役人事、労政、安全に関する事項担当、社員部長 平成23年4月 取締役（現任）	(注)4	67
取締役	財務に関する事項担当、財務部長	谷 俊之	昭和30年6月18日生	昭和54年4月 当社入社 平成21年4月 執行役員内部監査部長 平成21年7月 執行役員財務部長 平成22年4月 執行役員財務に関する事項担当、財務部長 平成22年6月 取締役（現任）	(注)4	28
取締役	自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、プレス事業部長	齋藤 徳夫	昭和31年12月13日生	昭和54年4月 当社入社 平成19年4月 執行役員プレス事業部副事業部長兼プレス事業部営業総括部長 平成23年4月 執行役員自動車・産業機械部品事業に関する事項担当、プレス事業部長 平成23年5月 福建トピー汽車零件有限公司董事長（現任） 平成23年6月 取締役（現任） 平成24年5月 天津トピー機械有限公司董事長（現任）	(注)4	21
取締役	鉄鋼事業に関する事項担当、スチール事業部長、新製鋼工場建設プロジェクトリーダー	棚橋 章	昭和31年11月18日生	昭和55年4月 当社入社 平成19年4月 執行役員スチール事業部副事業部長兼スチール事業部豊橋製造所長 平成23年4月 執行役員鉄鋼事業に関する事項担当、スチール事業部長 平成23年6月 取締役鉄鋼事業に関する事項担当、スチール事業部長 平成24年5月 取締役（現任）	(注)4	37

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		三津間 健	昭和30年3月11日生	昭和53年4月 株式会社富士銀行入行 平成17年4月 株式会社みずほ銀行執行役員コン サルティング業務部長 平成19年4月 同行常務執行役員 平成21年4月 同行理事 平成21年6月 同行常勤監査役 平成24年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)5	-
常勤監査役		黒崎 民雄	昭和24年11月28日生	昭和47年4月 安田生命保険相互会社入社 平成17年4月 明治安田生命保険相互会社執行役 員コンプライアンス統括部長 平成17年12月 同社常務執行役員法人営業部門長 平成18年4月 同社専務執行役員法人営業部門長 平成18年7月 同社専務執行役員法人営業部門長 平成24年4月 同社常任顧問 平成24年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)5	-
常勤監査役		瀧山 崇	昭和22年5月6日生	昭和45年4月 当社入社 平成12年11月 プレス事業部品質保証部長 平成17年11月 プレス事業部アルミ事業推進部アル ミ生産部長 平成18年4月 執行役員プレス事業部アルミ事業 推進部長兼プレス事業部アルミ事 業推進部アルミ生産部長 平成19年4月 プレス事業部アルミ事業推進部付 参与 平成19年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)6	28
常勤監査役		能野 基道	昭和24年3月4日生	昭和48年4月 当社入社 平成10年4月 スチール事業部総括部長 平成15年11月 スチール事業部海外部長 平成19年6月 海外企画部長 平成21年4月 海外企画部付参与 平成21年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)6	31
		計	15名			552

(注)1. 監査役三津間 健及び黒崎 民雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

2. 当社では、執行役員制度を導入しています。

執行役員は9名で、プレス事業部副事業部長の小川 雄三、効率改善、情報技術に関する事項担当、効率改善部長兼情報技術部長の石井 泰人、プレス事業部長付特命事項担当の秋山 範雄、総務、法務に関する事項担当、総務部長の熊澤 智、経営企画、関係会社に関する事項担当、経営企画部長の木嶋 伸一、トピーアメリカ、INC.代表取締役社長の竹内 一郎、造機事業部副事業部長兼造機事業部神奈川製造所長の木下 浩幸、内部監査部長の小島 正、サイエンス事業部長の山本 勝で構成されています。

3. 当社では、平成16年4月より、固有技術・新製品開発等、技術力の向上発展を図ることを目的に、技術者の最高資格として取締役・執行役員と同等に処遇する「技監制度」を導入しています。

技監の種類は、特別技監と技監です。

現在、特別技監には、研究開発センター研究開発部の角村 義幸が就任しています。

4. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

5. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

7. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しています。

補欠監査役の略歴は次のとおりです。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
横山 太喜夫	昭和25年11月18日生	昭和61年3月 公認会計士登録 平成2年9月 横山太喜夫公認会計士事務所開業(現在に至る)	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、「トピー工業グループの存続と発展を通じて広く社会の公器としての責務を果たし、内外の信頼を得る。」というグループ基本理念を制定しております。すなわち、当社グループは、顧客・ユーザーの満足を得られる高品質で価格競争力のある商品を提供することで、社会の発展に寄与し、また、適時・適切な情報開示、地域社会への貢献、地球環境問題への積極的な取り組み等を通じて、企業として社会的責任を果たしていくことにより、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を一層高めていくことを使命としております。

当社グループが法と企業倫理に基づき行動しグループ基本理念を実現していくためには、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が経営の最重要課題のひとつであると認識しております。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社は、監査役会設置会社であり、また業務執行強化のために執行役員制度を導入しております。

取締役会(原則月1回開催)において、法令で定められた事項のほか、経営の基本方針をはじめとする会社の重要事項を決定しております。また、取締役会の審議が効率的に行われることを確保するため、役付取締役等で構成する経営会議(原則週1回開催)において、取締役会決議事項の事前審議を行うとともに、取締役の職務の執行の効率性を確保するため、業務執行の方針・計画及び実施についても審議し、適正な経営判断を行っております。

また、業務執行の有効性・効率性をより高めるべく、執行役員会(原則月1回開催)において執行役員間の情報共有・意見交換を行っております。

さらに、経営環境の変化に迅速に対応するため取締役及び執行役員の任期を1年にしております。

監査役会は、社外監査役2名、社内監査役2名計4名で構成し、全監査役を常勤監査役とし、公正かつ中立な監査を実施しております。

ロ 企業統治の体制を採用する理由

当社は、取締役会を当社グループ事業に精通した取締役で構成することにより経営効率の維持・向上を図るとともに、社外監査役を含め法的に強い監査権が付与された監査役による経営監視機能の充実により、経営の健全性の維持・強化を図っております。

ハ 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

当社が取締役会において業務の適正を確保するための体制として決議した事項は、次のとおりであります。

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、法令遵守の基本精神に則り、「グループ基本理念」及び「グループ行動規範」を取締役及び使用人全員へ周知します。また、各部門が有する法令・企業倫理遵守責任を補完・強化するための機関として設置している「コンプライアンス委員会」で、法令遵守に関する施策の推進を行います。

周知に当たっては「コンプライアンス・ガイドブック」等を活用し、事業活動に係わるコンプライアンスに対する取締役及び使用人の責任を明確化します。

一方、「グループ企業倫理相談室」及び「グループ・コンプライアンス・ホットライン」で法令・企業倫理遵守に関する通報・相談への対応を行います。

また、社長直轄の内部監査部の設置により内部統制システムの強化を行います。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役の職務の執行に係る情報については、法令並びに情報の保存及び管理に関する社内規程に従い適切にその保存と管理を行います。

また、取締役及び監査役がこれらを常時閲覧できる状態に維持します。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、リスク管理を経営の最重要課題の一つと位置付け、リスク管理に関しては、関連する社内規程に従った各部門の自律的な取り組みを基本とし、さらに、各種委員会での審議を通じて、リスク発生の未然防止及び発生した場合の的確な対応を行います。

さらに、天災地変、事故、環境問題等により重大な損失を被るリスクに対しては、経営会議の下に設置している「危機管理委員会」で的確に対応します。

また、内部監査部が各部門等のリスク管理状況を監査します。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、取締役会(原則月1回開催)において、法令で定められた事項の他、経営の基本方針を始めとする会社の重要事項を決定します。

一方、取締役会決議事項の事前審議のみならず、業務執行の方針・計画及び実施に関して、役付取締役等で構成する経営会議(原則週1回開催)で審議し、適正な経営判断を行います。また、経営計画を策定し、あらかじめ定められた役割分担・職務分掌に則り、各部門の部門目標へ展開し、その進捗及び業績管理を行い

ます。

当社及びその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、グループ各社における業務の適正を確保するため、グループ各社の重要な会議への出席や重要案件に関する事前報告及び協議等により経営状況を把握すると共に、グループ各社に相応しい内部統制システムの構築を指導します。

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社には監査役の職務を補助すべき専属の使用人はおりませんが、必要に応じて、監査役の補助使用人を置くこととし、その補助使用人に対する人事等については、取締役と監査役が事前協議の上決定するものとします。

取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、監査役に対して法定の事項に加え、内部監査部の業務、常設委員会の活動内容、その他当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項等について報告します。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社は、監査役が取締役及び使用人の重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するために、取締役会その他の重要な会議に出席し、業務執行に関する重要な文書等を閲覧し、必要に応じて取締役又は使用人にその説明を求められることができる体制を確保するとともに、監査役と代表取締役との定期的な意見交換会を開催します。また、監査役に対して、必要に応じ外部の専門家から監査業務に関する助言を受ける機会を確保します。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査体制につきましては、他部門から独立した社長直轄組織である内部監査部（人員数10名）を設置しております。

当社では、適正な業務執行や財務報告の信頼性を確保するための体制を整備し、内部監査部による監査活動を通じてその整備及び運用の状況を評価することで、内部統制システムの強化を図っております。

監査役監査においては、監査役は、法令で定められた事項に加え、内部監査部の業務内容、予算委員会、技術委員会、コンプライアンス委員会、危機管理委員会等の常設委員会の活動内容、その他当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項等について報告を受けております。また、監査役は、取締役会の意思決定の過程、並びに取締役及び従業員の重要な業務執行の状況を把握するために、取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会等重要な会議に出席し、意思決定又は業務執行に関する重要な文書等を閲覧し、必要に応じて取締役又は従業員にその説明を求めるとともに、代表取締役との定期的な意見交換会を行っております。

さらに、監査役の職務を補助する監査役室を置いております。

監査役、内部監査部及び会計監査人は、年間の監査計画の策定、監査の実施状況及び監査結果の報告等について、年に4回程度定期的な報告・意見交換会を行い、日常業務においても密な打ち合わせを行って相互連携を深めるとともに監査の実効性の強化に努めております。

会計監査の状況

会計監査人には新日本有限責任監査法人を選任し、会計上の課題につきましては適時確認を行い会計処理の適正性を確保するとともに、公正な立場から監査が実施される環境を整備しております。

なお、監査業務を執行した公認会計士の氏名等、所属する監査法人名及び継続監査年数は以下のとおりです。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員	村山 憲二	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	麻生 和孝	

（注）継続監査年数については、全員7年以内です。

同監査法人は、既に自主的に業務執行社員について当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置を取っております。また、監査業務にかかる補助者の構成は、公認会計士5名、その他16名です。

社外取締役及び社外監査役

当社は、2名の社外監査役を選任しております。

社外監査役三津間 健氏は、当社との間に特別の利害関係がなく、東京・大阪・名古屋証券取引所に対して独立役員として届け出て受理されております。同氏は、株式会社小森コーポレーションの監査役ですが、当社と当社との間に人的・資本的・取引関係はありません。また、同氏は、みずほ銀行株式会社の出身者ですが、当社と同行との間に人的・資本的・取引関係はありません。

社外監査役黒崎民雄氏は、当社との間に重要な利害関係がなく、東京・大阪・名古屋証券取引所に対して独立役員として届け出て受理されております。同氏は、みずほ信託銀行株式会社の監査役です。当社は同社から借入金総額の1割未満の借入れを行っており、同社は当社株式の2.03%を保有しております。また、同氏は、明治安田生命保険相互会社の出身者です。当社は同社から借入金総額の1割未満の借入れを行っており、同社は当社株式の4.04%を保有しております。

当社における独立性のある社外取締役・社外監査役とは、事業等の意思決定に対して影響を与え得る相手方またはその出身者でない者をいいます。当社は、2名の社外監査役が独立性を有すると考え、主に金融機関における経営者として培った豊富な経験に基づき取締役会の意思決定の適法性・妥当性を確保するための助言・提言や、監査役会における発言を期待しております。

さらに、上記のとおり取締役会等への出席、重要な文書等の閲覧、取締役・従業員への説明要求、代表取締役との定期的な意見交換会を行ってまいります。

社外監査役三津間 健氏及び社外監査役黒崎民雄氏は、金融機関における経営者として培った豊富な経験に基づく財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、当社としてはかかる社外監査役の選任状況は適切であると考えております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、4名の常勤監査役による経営監視機能の充実により、経営の健全性の維持・強化を図っていることから、現状の体制としております。

役員報酬の内容

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	295	222	-	72	14
監査役 (社外監査役を除く。)	34	28	-	5	2
社外役員	36	31	-	5	2

ロ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬は、「報酬委員会」において報酬の方針及び会社業績等を勘案した報酬の水準につき審議し、その答申を踏まえ、あらかじめ株主総会で決議された報酬総額の範囲内で、取締役報酬については取締役会で、監査役報酬については監査役全員の協議により、それぞれ決定することとしています。

「報酬委員会」は、公正性、透明性の高い報酬制度とするため、社外委員2名(社外監査役2名)、社内委員1名にて構成し、かつ社外委員が委員長に就任しております。

役員の報酬等については、会社業績と企業価値の持続的な向上に資することを基本とし、職責に十分見合う報酬水準及び報酬体系となるよう設計しており、報酬水準の設定にあたっては、外部専門会社の調査データを活用するなど、より客観性を高めています。

取締役の報酬には、定額報酬及び業績連動報酬で構成される基本報酬と賞与があります。

業績連動報酬は、前事業年度を対象期間とした会社業績と個人業績に連動します。基本報酬の30%を標準として、0%~75%の範囲で変動し、そのうち会社業績に連動した業績連動報酬は0%~65%、個人業績に連動した業績連動報酬は0%~10%としております。

会社業績に連動した業績連動報酬は、株主資本当期利益率(ROE)を主要指標として、総資産事業利益率(ROA)、売上高営業利益率及びD/Eレシオ等の業績指標の達成度を基準に算出された定量評価と、経営活動その他の諸状況を考慮した定性的評価を加味したポイントに基づき算出いたします。

監査役の報酬は、企業業績に左右されない独立の立場を考慮し、定額報酬で構成される基本報酬のみとしております。

なお、役員退職慰労金については、平成24年6月をもって制度を廃止しております。

株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額 75銘柄 14,240百万円

口 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	1,860,681	6,233	(注)1
(株)みずほフィナンシャルグループ	6,578,000	907	(注)2
スズキ(株)	387,176	719	(注)1
NKSJホールディングス(株)	1,117,000	606	(注)3
(株)横浜銀行	1,058,520	418	(注)2
日鐵商事(株)	1,366,000	341	(注)1
日立建機(株)	142,000	295	(注)1
みずほ信託銀行(株)	3,665,547	274	(注)2
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	560,150	215	(注)2
いすゞ自動車(株)	646,587	212	(注)1
伊藤忠商事(株)	241,500	210	(注)1
(株)小松製作所	58,750	165	(注)1
東海旅客鉄道(株)	250	164	(注)1
東京海上ホールディングス(株)	69,240	153	(注)3
曙ブレーキ工業(株)	350,000	148	(注)1
東亜建設工業(株)	874,000	145	(注)1
(株)りそなホールディングス	324,765	128	(注)2
岡谷鋼機(株)	125,000	111	(注)1
住友商事(株)	85,800	102	(注)1
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	335,244	98	(注)2
日本発条(株)	69,000	56	(注)1
清和中央ホールディングス(株)	5,000	53	(注)1
みずほインベスターズ証券(株)	594,000	45	(注)2
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	125,345	43	(注)2
(株)メタルアート	140,000	36	(注)1
住友重機械工業(株)	65,520	35	(注)1
(株)大垣共立銀行	110,594	30	(注)2

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日産車体(株)	40,000	24	(注)1
日野自動車(株)	54,000	21	(注)1
佐藤商事(株)	43,000	21	(注)1

- (注)1. 中長期的な観点から、取引の強化及び事業の拡大を図るための政策投資
2. 中長期的な観点から、安定的かつ機動的な資金調達を行うための政策投資
3. 中長期的な観点から、関係強化を通じ適切なリスクマネジメントを図るための政策投資

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	570,000	1,909	退職一時金制度に係る退職給付信託契約に基づくもの

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	1,860,681	6,642	(注)1
(株)みずほフィナンシャルグループ	8,890,035	1,200	(注)2
スズキ(株)	387,176	765	(注)1
NKSJホールディングス(株)	279,250	516	(注)3
(株)横浜銀行	1,058,520	438	(注)2
日鐵商事(株)	1,366,000	367	(注)1
いすゞ自動車(株)	671,548	325	(注)1
日立建機(株)	142,000	260	(注)1
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	560,150	230	(注)2
伊藤忠商事(株)	241,500	218	(注)1
東海旅客鉄道(株)	250	170	(注)1
曙ブレーキ工業(株)	350,000	165	(注)1
東京海上ホールディングス(株)	69,240	157	(注)3
東亜建設工業(株)	874,000	140	(注)1
(株)小松製作所	58,750	138	(注)1
(株)りそなホールディングス	324,765	123	(注)2
岡谷鋼機(株)	125,000	111	(注)1
住友商事(株)	85,800	102	(注)1
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	335,244	88	(注)2
日本発条(株)	69,000	61	(注)1
(株)メタルアート	140,000	57	(注)1

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
清和中央ホールディングス(株)	5,000	47	(注)1
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	125,345	46	(注)2
日産車体(株)	40,000	34	(注)1
(株)大垣共立銀行	110,594	32	(注)2
日野自動車(株)	54,000	32	(注)1
住友重機械工業(株)	65,520	30	(注)1
佐藤商事(株)	43,000	26	(注)1
黒崎播磨(株)	50,000	13	(注)1
高压ガス工業(株)	26,000	13	(注)1

- (注) 1. 中長期的な観点から、取引の強化及び事業の拡大を図るための政策投資
2. 中長期的な観点から、安定的かつ機動的な資金調達を行うための政策投資
3. 中長期的な観点から、関係強化を通じ適切なリスクマネジメントを図るための政策投資

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車(株)	570,000	2,034	退職一時金制度に係る退職給付信託契約に基づくもの

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

取締役の定数

当社の取締役は、25名以内とする旨定款に定めています。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めています。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めています。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものです。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役及び監査役の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めています。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものです。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	60	0	57	0
連結子会社	9	-	9	-
計	69	0	66	0

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

社債継続審査に伴う書類作成。

(当連結会計年度)

社債継続審査に伴う書類作成。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しています。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けています。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等の適正性を確保できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しています。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,853	22,232
受取手形及び売掛金	47,490	56,891 ⁵
商品及び製品	14,386	13,129
仕掛品	4,316	4,319
原材料及び貯蔵品	8,932	8,380
繰延税金資産	2,383	2,113
その他	4,789	4,918
貸倒引当金	45	50
流動資産合計	101,106	111,936
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	70,406	70,120
減価償却累計額	46,009	47,121
建物及び構築物(純額)	24,396 ²	22,999 ²
機械装置及び運搬具	151,658 ⁴	152,281 ⁴
減価償却累計額	123,193	126,450
機械装置及び運搬具(純額)	28,465 ²	25,831 ²
土地	18,261 ²	17,681 ^{2,4}
リース資産	1,005	1,045
減価償却累計額	95	170
リース資産(純額)	909	875
建設仮勘定	766	3,019
その他	30,433	28,292
減価償却累計額	28,593	26,769
その他(純額)	1,840 ²	1,522 ²
有形固定資産合計	74,640	71,930
無形固定資産		
その他	555	1,525
無形固定資産合計	555	1,525
投資その他の資産		
投資有価証券	23,132 ^{1,2}	21,779 ^{1,2}
長期貸付金	595	594
繰延税金資産	1,798	3,135
破産更生債権等	3	2
その他	2,204 ¹	1,981 ¹
貸倒引当金	80	57
投資その他の資産合計	27,653	27,435
固定資産合計	102,849	100,891
資産合計	203,956	212,828

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	38,549	⁵ 44,338
短期借入金	² 25,666	² 25,044
1年内償還予定の社債	3,300	300
リース債務	71	77
未払法人税等	1,169	2,616
資産除去債務	18	-
その他	² 8,805	² 10,883
流動負債合計	77,580	83,261
固定負債		
社債	13,900	13,900
長期借入金	² 18,829	² 18,846
リース債務	834	797
繰延税金負債	308	86
退職給付引当金	5,650	6,473
役員退職慰労引当金	876	896
定期修繕引当金	731	473
資産除去債務	260	260
負ののれん	114	-
持分法適用に伴う負債	-	949
その他	² 4,703	² 3,786
固定負債合計	46,210	46,470
負債合計	123,790	129,731
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,983	20,983
資本剰余金	18,824	18,824
利益剰余金	45,299	47,794
自己株式	859	863
株主資本合計	84,247	86,739
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	937	1,216
繰延ヘッジ損益	1	2
為替換算調整勘定	5,686	5,563
その他の包括利益累計額合計	4,747	4,349
少数株主持分	665	706
純資産合計	80,165	83,096
負債純資産合計	203,956	212,828

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	221,413	240,534
売上原価	1, 3 188,145	1, 3 203,258
売上総利益	33,268	37,276
販売費及び一般管理費	2, 3 26,261	2, 3 26,722
営業利益	7,006	10,554
営業外収益		
受取利息	35	43
受取配当金	282	362
負ののれん償却額	230	114
その他	510	426
営業外収益合計	1,057	946
営業外費用		
支払利息	1,036	1,016
為替差損	475	87
持分法による投資損失	802	2,509
その他	507	582
営業外費用合計	2,822	4,197
経常利益	5,241	7,304
特別利益		
固定資産売却益	4 32	4 66
投資有価証券売却益	32	-
適格退職年金終了益	86	-
製品補償費戻入額	104	-
その他	11	5
特別利益合計	268	71
特別損失		
固定資産売却損	5 1	5 372
固定資産除却損	309	442
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩額	-	317
投資有価証券評価損	169	60
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	175	-
震災損失	6 62	-
減損損失	-	7 6
その他	25	58
特別損失合計	744	1,257
税金等調整前当期純利益	4,765	6,118
法人税、住民税及び事業税	1,561	3,332
法人税等調整額	1,057	1,312
法人税等合計	2,618	2,019
少数株主損益調整前当期純利益	2,147	4,098
少数株主利益	74	180
当期純利益	2,072	3,918

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,147	4,098
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,396	277
繰延ヘッジ損益	3	3
為替換算調整勘定	1,113	85
持分法適用会社に対する持分相当額	19	0
その他の包括利益合計	2,487	360
包括利益	340	4,459
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	396	4,316
少数株主に係る包括利益	56	142

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	20,983	20,983
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	20,983	20,983
資本剰余金		
当期首残高	18,824	18,824
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	18,824	18,824
利益剰余金		
当期首残高	43,707	45,299
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,072	3,918
当期変動額合計	1,592	2,494
当期末残高	45,299	47,794
自己株式		
当期首残高	149	859
当期変動額		
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	709	3
当期末残高	859	863
株主資本合計		
当期首残高	83,365	84,247
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,072	3,918
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	882	2,491
当期末残高	84,247	86,739

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,313	937
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,376	279
当期変動額合計	1,376	279
当期末残高	937	1,216
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	1	1
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	3
当期変動額合計	3	3
当期末残高	1	2
為替換算調整勘定		
当期首残高	4,591	5,686
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,095	123
当期変動額合計	1,095	123
当期末残高	5,686	5,563
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,278	4,747
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,469	398
当期変動額合計	2,469	398
当期末残高	4,747	4,349
少数株主持分		
当期首残高	797	665
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	132	41
当期変動額合計	132	41
当期末残高	665	706
純資産合計		
当期首残高	81,884	80,165
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,072	3,918
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,602	440
当期変動額合計	1,719	2,931
当期末残高	80,165	83,096

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,765	6,118
減価償却費	10,057	9,310
負ののれん償却額	230	114
減損損失	-	6
貸倒引当金の増減額（ は減少）	9	17
退職給付引当金の増減額（ は減少）	633	822
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	183	19
定期修繕引当金の増減額（ は減少）	203	257
受取利息及び受取配当金	317	405
支払利息	1,036	1,016
為替差損益（ は益）	0	0
持分法による投資損益（ は益）	802	2,509
たな卸資産評価損	121	331
有価証券及び投資有価証券売却損益（ は益）	32	0
有価証券及び投資有価証券評価損益（ は益）	169	60
有形固定資産の売却損益及び除却損（ は益）	278	747
ゴルフ会員権評価損	11	40
製品補償費戻入額	104	-
適格退職年金終了益	86	-
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩額	-	317
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	180	-
震災損失	19	-
売上債権の増減額（ は増加）	10,096	9,511
たな卸資産の増減額（ は増加）	5,023	1,291
仕入債務の増減額（ は減少）	6,526	5,961
その他の資産・負債の増減額	254	249
小計	8,733	18,496
利息及び配当金の受取額	372	416
利息の支払額	1,020	1,015
災害損失の支払額	897	-
法人税等の支払額	1,191	2,113
法人税等の還付額	241	227
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,236	16,010

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額（ は増加）	964	0
有形固定資産の取得による支出	5,493	7,254
有形固定資産の売却による収入	975	542
投資有価証券の取得による支出	18	19
投資有価証券の売却による収入	54	3
貸付けによる支出	80	19
貸付金の回収による収入	43	21
無形固定資産の取得による支出	47	1,025
無形固定資産の売却による収入	30	-
子会社出資金の取得による支出	117	-
その他投資の回収による収入	8	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,681	7,703
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	6,960	416
長期借入れによる収入	4,095	9,060
長期借入金の返済による支出	5,542	10,080
社債の発行による収入	8,237	292
社債の償還による支出	440	3,300
C M S による預り金の増減額（ は減少）	-	250
リース債務の返済による支出	60	70
自己株式の処分による収入	0	0
自己株式の取得による支出	710	3
配当金の支払額	484	1,422
少数株主への配当金の支払額	88	125
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,952	4,983
現金及び現金同等物に係る換算差額	246	59
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	355	3,383
現金及び現金同等物の期首残高	20,547	18,741
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	2,161	-
現金及び現金同等物の期末残高	18,741	22,124

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 19社

トピー実業(株)・トピー海運(株)・トピーファスナー工業(株)・(株)トピーレック・九州ホイール工業(株)・(株)トージツ
・(株)オートピア・明海リサイクルセンター(株)・トピ - インターナショナル(ヨーロッパ) B.V.・トピープレ
シジョンMFG., INC.・(株)三和部品・明海発電(株)・トピーファスナー(タイランド)LTD.・トピーアメリ
カ, INC.・エヌイー・トージツ(株)・青島トピー機械有限公司・福建トピー汽車零件有限公司・トピー履帯
(中国)有限公司及びトピーファスナー・ベトナム・カンパニー・リミテッド

上記のうち、トピー履帯(中国)有限公司及びトピーファスナー・ベトナム・カンパニー・リミテッドについ
ては、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 非連結子会社のうち主要会社名

(株)トピーエージェンシー

(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いず
れも小規模であり、かつ、全体としても、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないので連結の範囲から除きま
した。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数 1社

棚倉開発(株)

(2) 持分法適用の関連会社数 2社

北越メタル(株)

日鉄トピーブリッジ(株)

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要会社名

(株)トピーエージェンシー

(4) 持分法を適用しない理由

持分法適用外の非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分
に見合う額)等の連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用
範囲から除きました。

(5) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用
しています。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

トピープレシジョンMFG., INC.・トピーファスナー(タイランド)LTD.・トピーアメリカ, INC.・青
島トピー機械有限公司・福建トピー汽車零件有限公司・トピー履帯(中国)有限公司及びトピーファスナー・ベ
トナム・カンパニー・リミテッドの決算日は12月31日です。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日の財務諸表を使用しています。ただし、1月1日から連結決算日3月
31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均
法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ) デリバティブ

時価法

ハ) たな卸資産

商品

商品区分により最終仕入原価法又は総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価
切下げの方法により算定)

製品・半製品・原材料・仕掛品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

ロールは個別法、その他は主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ) 有形固定資産（リース資産を除く）

当社の建物・機械装置及び運搬具は、定率法と定額法を併用し、その他は定率法を採用しています。連結子会社は定率法又は定額法を採用しています。（取得価額全体で、建物及び構築物の49.3%、機械装置及び運搬具の51.8%、その他の82.1%が定率法により償却されています。）

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物	10～47年
機械装置及び運搬具	4～14年
その他	2～10年

ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しています。

ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年間）に基づく定額法を採用しています。

ハ) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しています。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ) 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

ロ) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。

会計基準変更時差異は、退職給付信託設定後の残高を主として15年による按分額で費用処理しています。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間年数（主として15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しています。

ハ) 役員退職慰労引当金

役員及び執行役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社及び国内連結子会社は内部規程に基づく連結会計年度末要支給額を計上しています。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しています。

なお、在外子会社等の資産・負債及び収益・費用は、連結決算日の直物為替相場により円換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めています。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理を採用しています。なお、為替予約及び通貨スワップについて振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しています。

ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりです。

- ヘッジ手段... 為替予約及び通貨スワップ
- ヘッジ対象... 外貨建債権及び外貨建予定取引
- ヘッジ手段... 商品先物取引
- ヘッジ対象... 商品現物取引

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金利

八) ヘッジ方針

主として内部規程に基づき、為替変動リスク、商品価格変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしていません。

二) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額を基礎にして判定しています。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しています。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

負ののれんの償却については、5年間の均等償却を行っています。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

(8) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しています。

【追加情報】

「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の適用

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	6,670百万円	5,101百万円
その他(出資金)	22	22

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	12,170百万円 (8,429百万円)	10,677百万円 (7,682百万円)
機械装置及び運搬具	12,975 (12,975)	10,716 (10,716)
土地	5,514 (2,749)	5,493 (2,749)
その他(有形固定資産)	16 (16)	10 (10)
計	30,676 (24,171)	26,897 (21,159)

担保付債務は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	1,074百万円 (781百万円)	881百万円 (663百万円)
その他(流動負債)	63 (-)	- (-)
長期借入金	1,452 (1,234)	950 (950)
その他(固定負債)	3,024 (-)	2,782 (-)
計	5,614 (2,015)	4,614 (1,614)

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しています。

また、上記のほか、投資有価証券の前連結会計年度末873百万円及び当連結会計年度末798百万円は、金融機関との間に社内預金引当信託契約を結び信託財産として供しています。社内預金残高は、前連結会計年度末780百万円及び当連結会計年度末758百万円です。

3 保証債務

関係会社及び従業員について、金融機関からの借入に対し次のとおり債務保証を行っています。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
トピー実業(大連保税区)有限公司 (借入債務)	6百万円	5百万円
従業員(住宅融資借入債務)	772	601
計	779	607

4 有形固定資産取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	588百万円	588百万円
土地	-	51
計	588	639

5 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしています。なお、当連結会計年度の末日は金融機関が休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれています。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	392百万円
支払手形	-	954

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれていません。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	121百万円	331百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
運賃	7,893百万円	8,426百万円
給料	5,863	5,788
退職給付費用	1,196	1,167

- 3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	1,245百万円	1,271百万円

- 4 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	21百万円	28百万円
機械装置及び運搬具	10	26
土地	0	-
その他(有形固定資産)	-	11
計	32	66

- 5 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	0百万円	- 百万円
機械装置及び運搬具	0	0
土地	-	371
計	1	372

- 6 東日本大震災により被災した建物等の損害及び復旧に要する費用です。

7 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
長野県北安曇郡	遊休資産	土地

当社グループは、原則として、事業用資産についてはセグメントを構成する連結会社の事業部別にグルーピングを行い、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っています。

当連結会計年度において、市場価格の下落があった土地について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(6百万円)として特別損失に計上しています。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額及びこれに準ずる合理的な方法により算定しています。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金	
当期発生額	243百万円
組替調整額	59
税効果調整前	303
税効果額	25
その他有価証券評価差額金	277
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	6
組替調整額	-
税効果調整前	6
税効果額	2
繰延ヘッジ損益	3
為替換算調整勘定	
当期発生額	231
組替調整額	317
税効果調整前	85
税効果額	-
為替換算調整勘定	85
持分法適用会社に対する持分相当額	
当期発生額	0
その他の包括利益合計	360

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	240,775	-	-	240,775
合計	240,775	-	-	240,775
自己株式				
普通株式(注)1.2	540	3,037	1	3,576
合計	540	3,037	1	3,576

(注)1. 普通株式の自己株式数の増加3,037千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得3,000千株及び単元未満株式の買取り37千株による増加です。

2. 普通株式の自己株式数の減少1千株は、単元未満株式の売渡しによる減少です。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月21日 取締役会	普通株式	480	2.0	平成22年3月31日	平成22年6月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月24日 取締役会	普通株式	948	利益剰余金	4.0	平成23年3月31日	平成23年6月8日

当連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	240,775	-	-	240,775
合計	240,775	-	-	240,775
自己株式				
普通株式（注）1.2	3,576	16	0	3,592
合計	3,576	16	0	3,592

（注）1. 普通株式の自己株式数の増加16千株は、単元未満株式の買取りによる増加です。

2. 普通株式の自己株式数の減少0千株は、単元未満株式の売渡しによる減少です。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成23年5月24日 取締役会	普通株式	948	4.0	平成23年3月31日	平成23年6月8日
平成23年11月4日 取締役会	普通株式	474	2.0	平成23年9月30日	平成23年12月6日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年5月22日 取締役会	普通株式	474	利益剰余金	2.0	平成24年3月31日	平成24年6月7日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当連結会計年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
現金及び預金勘定	18,853百万円	22,232百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	111	107
現金及び現金同等物	18,741	22,124

2 前連結会計年度に合併により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

連結子会社であったトピー鉄構株式会社は、平成22年4月1日に日鉄ブリッジ株式会社と合併し、日鉄トピーブリッジ株式会社となりました。その結果、日鉄トピーブリッジ株式会社は、関連会社となったため、前連結会計年度より持分法適用の関連会社としています。これに伴い減少した資産及び負債の内訳は次のとおりです。

流動資産	3,897百万円
固定資産	987
資産合計	4,885
流動負債	2,707
負債合計	2,707

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に、自動車・産業機械部品事業における機械装置及び運搬具です。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理により、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	522	196	325
機械装置及び運搬具	621	503	118
その他	720	531	188
合計	1,864	1,231	632

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	507	209	297
機械装置及び運搬具	344	309	35
その他	482	412	70
合計	1,333	930	403

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	236	119
1年超	429	310
合計	666	429

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	493	246
減価償却費相当額	463	228
支払利息相当額	18	11

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっています。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	604	242
1年超	2,159	1,967
合計	2,763	2,209

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しています。一時的な余資は、主に流動性が高くかつリスクが低い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しています。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針です。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替レートの変動リスクに晒されていますが、このうち一部は先物為替予約を利用してヘッジしています。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、その全てが1年以内の支払期日です。一部外貨建てのものについては、為替レートの変動リスクに晒されていますが、このうち一部は先物為替予約を利用してヘッジしています。

短期借入金は、主に運転資金を目的としたものです。また、長期借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は主に7年以内です。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしています。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替レートの変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引及び通貨スワップ取引、商品現物取引の価格の変動リスクに対するヘッジを目的とした商品先物取引、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引です。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (5)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、社内規程に従い、営業債権については、各事業部門における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っています。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しています。

市場リスク（為替レートや金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社では、外貨建ての営業債権債務については、通貨別・月別に把握された為替レートの変動リスクに対して、一部は先物為替予約を利用してヘッジしています。また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用してしています。

当社グループでは、有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

また、当社グループの金利スワップ、通貨先物為替予約、通貨スワップ及び商品先物取引等のデリバティブ取引の執行・管理については、社内規程に則って実行しています。当該規程には、取引の方針、利用目的、利用範囲及び報告体制に関する規程が明記されています。また、取引実行部門と取引内容をチェックする部門を組織的に独立させ、相互牽制機能が働く体制を採用しています。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループでは、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しています。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていません（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	18,853	18,853	-
(2) 受取手形及び売掛金	47,444	47,444	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	14,748	14,748	-
資産計	81,045	81,045	-
(1) 支払手形及び買掛金	38,549	38,549	-
(2) 短期借入金(*1)	18,016	18,016	-
(3) 社債(*2)	17,200	17,394	194
(4) 長期借入金(*1)	26,479	26,745	266
負債計	100,244	100,704	460
デリバティブ取引(*3)			
(1) ヘッジ会計が 適用されていないもの	2	2	-
(2) ヘッジ会計が 適用されているもの	13	13	-

(*1)短期借入金に計上されている1年以内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めて示しています。

(*2)1年以内償還予定の社債は、社債に含めて示しています。

(*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示し、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	22,232	22,232	-
(2) 受取手形及び売掛金	56,841	56,841	-
(3) 投資有価証券 その他有価証券	14,983	14,983	-
資産計	94,058	94,058	-
(1) 支払手形及び買掛金	44,338	44,338	-
(2) 短期借入金(*1)	18,432	18,432	-
(3) 社債(*2)	14,200	14,444	244
(4) 長期借入金(*1)	25,459	25,668	208
負債計	102,430	102,883	453
デリバティブ取引(*3)			
(1) ヘッジ会計が 適用されていないもの	(81)	(81)	-
(2) ヘッジ会計が 適用されているもの	6	6	-

(*1)短期借入金に計上されている1年以内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めて示しています。

(*2)1年以内償還予定の社債は、社債に含めて示しています。

(*3)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示し、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しています。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格により、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっています。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

(3) 社債

これらの時価については、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定していません。

(4) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

なお、変動金利による長期借入金について、時価は帳簿価額に等しいことから、当該帳簿価額によっています。

また、変動金利による長期借入金は、金利スワップの特例処理の対象とされ、(下記「デリバティブ取引(1)」参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられた利率で割り引いて算定する方法によっています。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及びヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。また、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされる長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しています。(上記「負債(4) 長期借入金」参照)

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	1,712	1,693

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めていません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	18,853	-	-	-
受取手形及び売掛金	47,444	-	-	-
合計	66,297	-	-	-

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	22,232	-	-	-
受取手形及び売掛金	56,841	-	-	-
合計	79,074	-	-	-

4. 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
社債	3,300	10,900	3,000	-
長期借入金	7,650	17,023	1,772	33
合計	10,950	27,923	4,772	33

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
社債	300	10,900	3,000	-
長期借入金	6,612	16,978	1,840	28
合計	6,912	27,878	4,840	28

（有価証券関係）

1. その他有価証券

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上 額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	5,509	2,923	2,585
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債 その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	5,509	2,923	2,585
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	9,239	10,178	939
	(2) 債券			
	国債・地方債 等	-	-	-
	社債 その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,239	10,178	939
合計		14,748	13,102	1,646

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 1,712百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	6,136	3,444	2,691
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	6,136	3,444	2,691
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	8,847	9,673	825
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	8,847	9,673	825
	合計	14,983	13,118	1,865

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 1,693百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	54	32	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	54	32	-

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
(1) 株式	3	-	0
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	3	-	0

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、150百万円減損処理を行っています。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っています。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル 買建	630	-	0	0
	人民元	800	-	2	2
合計		1,430	-	2	2

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2. 上記の為替予約取引は、関係会社に対する外貨建売掛金の為替相場の変動リスクを回避するために行っています。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル 売建	1,032	-	48	48
	人民元	870	-	32	32
合計		1,902	-	81	81

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2. 上記の為替予約取引は、関係会社に対する外貨建売掛金の為替相場の変動リスクを回避するために行っています。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
予定取引の原則的処理方法	為替予約取引 買建				
	米ドル	買掛金	534	-	13
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル 買建	売掛金	60	-	1
	米ドル	買掛金	143	-	0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
予定取引の原則的処理方法	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	10	-	0
	買建 米ドル	買掛金	206	-	6
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	16	-	0
	買建 米ドル	買掛金	33	-	0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

(2) 金利関連

前連結会計年度（平成23年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	12,144	8,145	216

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて表示しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	11,130	8,638	174

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しています。

2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて表示しています。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設け、当社においては退職給付信託を設定しています。

また、当社及び一部の連結子会社は確定拠出型年金制度を、一部の国内連結子会社は中小企業退職金共済制度をそれぞれ設けています。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	13,909	14,436
(2) 年金資産(百万円)	104	113
(3) 退職給付信託(百万円)	2,289	2,443
(4) 未積立退職給付債務(1)+(2)+(3)(百万円)	11,515	11,879
(5) 会計基準変更時差異の未処理額(百万円)	1,004	753
(6) 未認識数理計算上の差異(百万円)	4,860	4,652
(7) 連結貸借対照表計上額純額(4)+(5)+(6)(百万円)	5,650	6,473
(8) 前払年金費用(百万円)	-	-
(9) 退職給付引当金(7)-(8)(百万円)	5,650	6,473

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、主として簡便法を採用しています。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
退職給付費用(百万円)	2,239	2,186
(1) 勤務費用(百万円)	932	877
(2) 利息費用(百万円)	258	252
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	15	23
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額(百万円)	258	251
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	538	544
(6) 確定拠出年金制度への掛金支払額(百万円)	267	283

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しています。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.0%	2.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

主として15年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間年数による定額法により発生の際連結会計年度から費用処理しています。)

(5) 会計基準変更時差異の処理年数

主として15年の定額法

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	882百万円	935百万円
定期修繕引当金	272	158
役員退職慰労引当金	343	319
投資有価証券評価損	9	-
会員権評価損	168	136
未払事業税否認	120	217
退職給付引当金	2,261	2,329
退職給付信託設定に伴う資産抛出額	294	258
繰越欠損金	2,934	1,493
未実現利益	1,096	1,203
関係会社投資損失	-	1,339
減損損失	117	104
その他	1,815	2,342
繰延税金資産小計	10,318	10,838
評価性引当額	3,852	3,167
繰延税金資産合計	6,466	7,670
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	168	162
その他有価証券評価差額金	637	667
その他	1,785	1,677
繰延税金負債合計	2,592	2,507
繰延税金資産の純額	3,873	5,163

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	39.9%	39.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.3	2.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.1	2.9
住民税均等割等	0.8	0.6
税効果未計上連結子会社の一時差異	2.1	2.6
税効果未認識項目	4.0	10.6
持分法による投資損失	6.7	-
持分法による投資利益	-	0.2
負ののれん償却額	1.9	0.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	7.6
その他	1.1	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	54.9	33.0

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の39.9%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については37.3%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については34.9%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は375百万円減少し、法人税等調整額は468百万円、その他有価証券評価差額金は93百万円それぞれ増加しています。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用の商業施設等(土地を含む。)を有しています。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は540百万円(営業利益に計上)です。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は543百万円(営業利益に計上)、減損損失は6百万円(特別損失に計上)です。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	9,113	8,666
期中増減額	447	577
期末残高	8,666	8,088
期末時価	17,879	17,951

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

2. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて第三者機関で算定した金額です。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「鉄鋼事業」及び「自動車・産業機械部品事業」の2つを報告セグメントとしています。

「鉄鋼事業」は、普通形鋼、異形形鋼、異形棒鋼などの鉄鋼製品を生産しています。「自動車・産業機械部品事業」は、自動車用・産業車両用・建設機械用各種ホイール、プレス製品、建設機械用部品、工業用ファスナーなどを生産しています。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。また、報告セグメントの利益は、営業利益です。なお、セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいています。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	鉄鋼	自動車・ 産業機械 部品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	67,221	139,011	206,233	15,180	221,413	-	221,413
セグメント間の内部売上高又は振替高	22,147	-	22,147	-	22,147	22,147	-
計	89,369	139,011	228,381	15,180	243,561	22,147	221,413
セグメント利益	2,694	7,666	10,361	793	11,154	4,147	7,006
セグメント資産	63,784	89,630	153,414	29,296	182,711	21,244	203,956
その他の項目							
減価償却費	2,968	5,779	8,748	1,132	9,880	176	10,057
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,485	4,559	7,044	97	7,142	27	7,170

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電力卸供給、屋内外サインシステム、合成マイカ、クローラーロボット、不動産の賃貸及びスポーツ施設の運営事業などを含んでいます。

2. 調整欄の内容は以下のとおりです。

(1)セグメント利益 4,147百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に関わる費用です。

(2)セグメント資産21,244百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産27,790百万円及びセグメント間の内部取引消去 6,545百万円です。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に関わる資産です。

(3)その他の項目のうち、減価償却費176百万円は、主に当社本社の管理部門の設備に関わる減価償却費です。また、有形固定資産及び無形固定資産の増加額27百万円は、主に当社本社の管理部門の設備投資額です。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	鉄鋼	自動車・ 産業機械 部品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	71,271	154,031	225,302	15,232	240,534	-	240,534
セグメント間の内部売上高又は振替高	22,364	-	22,364	-	22,364	22,364	-
計	93,636	154,031	247,667	15,232	262,899	22,364	240,534
セグメント利益	3,833	10,392	14,225	801	15,027	4,472	10,554
セグメント資産	63,376	96,178	159,555	26,938	186,493	26,334	212,828
その他の項目							
減価償却費	2,840	5,302	8,143	1,028	9,172	138	9,310
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,502	5,893	8,396	526	8,923	59	8,982

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、電力卸供給、屋内外サインシステム、合成マイカ、クローラーロボット、土木・建築、不動産の賃貸及びスポーツ施設の運営事業などを含んでいます。

2. 調整欄の内容は以下のとおりです。

(1)セグメント利益 4,472百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に関わる費用です。

(2)セグメント資産26,334百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産31,696百万円及びセグメント間の内部取引消去 5,362百万円です。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に関わる資産です。

(3)その他の項目のうち、減価償却費138百万円は、主に当社の管理部門の設備に関わる減価償却費です。また、有形固定資産及び無形固定資産の増加額59百万円は、主に当社の管理部門の設備投資額です。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

前掲「セグメント情報」のとおりですので、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	中国	米国	その他	合計
172,218	19,815	14,223	15,157	221,413

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しています。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

前掲「セグメント情報」のとおりですので、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	中国	米国	その他	合計
189,504	16,748	19,284	14,997	240,534

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	鉄鋼	自動車・産業 機械部品	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	-	6	-	6

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりです。なお、当該負ののれんの償却額及び未償却残高は、報告セグメントに配分していません。

(単位:百万円)

当期償却額	230
当期末残高	114

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

平成22年4月1日前行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりです。なお、当該負ののれんの償却額及び未償却残高は、報告セグメントに配分していません。

(単位:百万円)

当期償却額	114
当期末残高	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の 関係会社	新日本製鐵 株	東京都千代 田区	419,524	鉄鋼製品等 の製造、販 売及びエン 지니어リン グ	所有 直接 0.1 被所有 直接 20.4 間接 0.1	原材料等の 購入及び製 品の販売	原材料等 の購入	23,684	売掛金等	1,518
							製品の販 売	4,250	買掛金等	1,505

当連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の 関係会社	新日本製鐵 株	東京都千代 田区	419,524	鉄鋼製品等 の製造、販 売及びエン 지니어リン グ	所有 直接 0.1 被所有 直接 20.4 間接 0.1	原材料等の 購入及び製 品の販売	原材料等 の購入	23,138	売掛金等	1,534
							製品の販 売	4,880	買掛金等	955

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれず、期末残高には消費税等が含まれています。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

市場価格を勘案して、一般取引条件と同様に決定しています。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	335円16銭	347円37銭
1株当たり当期純利益金額	8円64銭	16円52銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	2,072	3,918
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,072	3,918
期中平均株式数(千株)	239,989	237,191

(重要な後発事象)

当社は、平成24年5月10日開催の取締役会において、以下のとおり決議し子会社を設立しました。

(1) 設立の目的

当社は、鉱山向けダンプトラック用超大型ホイール需要の拡大に対応するために、新たに中華人民共和国に子会社を設立し、新工場を建設することとしました。

(2) 子会社の概要

名称：天津東碧機械有限公司

(日本語名称) 天津トピー機械有限公司

(英語名称) TIANJIN TOPY MACHINERY CO.,LTD.

所在地：中華人民共和国天津市西青経済開発区

代表者の役職・氏名：董事長 齋藤 徳夫

(当社取締役プレス事業部長、福建トピー汽車零件有限公司董事長)

事業内容：鉱山向けダンプトラック用超大型ホイール部品の生産、販売

資本金：約13億円(1,650万米ドル)

出資比率：当社 100%

設立年月日：2012年5月22日

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保 (種類・目的物及 び順位)	償還期限
当社	第14回無担保社債	平成16年8月9日	3,000 (3,000)	-	1.96	無担保 (社債間限定同順 位特約付)	平成23年8月9日
トピー実業㈱	第5回無担保社債	平成18年6月30日	300 (300)	-	1.60	無担保 (保証付)	平成23年6月30日
トピー実業㈱	第6回無担保社債	平成19年7月5日	300	300 (300)	2.13	無担保	平成24年7月5日
当社	第16回無担保社債	平成19年8月3日	4,000	4,000	2.14	無担保 (社債間限定同順 位特約付)	平成26年8月1日
当社	第17回無担保社債	平成19年8月6日	1,000	1,000	2.19	無担保 (適格機関投資家 限定)	平成26年8月6日
トピー実業㈱	第7回無担保社債	平成20年7月31日	300	300	1.52	無担保 (保証付)	平成25年7月31日
当社	第18回無担保社債	平成22年12月9日	5,000	5,000	0.86	無担保 (社債間限定同順 位特約付)	平成27年12月9日
当社	第19回無担保社債	平成22年12月9日	3,000	3,000	1.31	無担保 (社債間限定同順 位特約付)	平成29年12月8日
トピー実業㈱	第8回無担保社債	平成23年3月31日	300	300	0.92	無担保 (保証付)	平成28年3月31日
トピー実業㈱	第9回無担保社債	平成24年2月10日	-	300	1.23	無担保	平成29年2月10日
合計	-	-	17,200 (3,300)	14,200 (300)	-	-	-

(注) 1. 「当期末残高」欄の()は、1年以内償還予定の金額で内数です。

2. 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額は以下のとおりです。

1年以内(百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
300	300	5,000	5,300	300

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	18,016	18,432	1.22	-
1年以内に返済予定の長期借入金	7,650	6,612	1.78	-
1年以内に返済予定のリース債務	71	77	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	18,829	18,846	1.77	平成25年4月 ～平成43年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	834	797	-	平成25年4月 ～平成42年12月
その他有利子負債(設備関係未払金)	63	-	-	-
その他有利子負債(建設協力金)	2,299	2,058	0.40	平成24年4月 ～平成32年11月
合計	47,765	46,825	-	-

(注) 1. 平均利率の算定にあたっては、当連結会計年度末時点での利率及び残高を使用しています。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3. 長期借入金、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	4,856	4,889	4,311	2,920
リース債務	69	66	62	51
その他有利子負債 (建設協力金)	241	241	241	241

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	54,690	113,692	177,332	240,534
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	1,320	2,195	3,894	6,118
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	918	1,383	2,923	3,918
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	3.87	5.83	12.32	16.52

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.87	1.96	6.49	4.20

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,165	8,042
受取手形	1 328	1, 4 517
売掛金	1 40,789	1 49,315
商品及び製品	8,025	7,165
仕掛品	2,667	2,662
原材料及び貯蔵品	5,707	5,018
前渡金	14	13
前払費用	520	500
繰延税金資産	1,804	1,192
未収入金	1 3,781	1 4,092
その他	586	1,213
貸倒引当金	28	37
流動資産合計	72,362	79,697
固定資産		
有形固定資産		
建物	40,145	40,308
減価償却累計額	25,003	25,862
建物(純額)	2 15,141	2 14,445
構築物	13,173	13,338
減価償却累計額	10,388	10,744
構築物(純額)	2 2,785	2 2,594
機械及び装置	108,874	109,177
減価償却累計額	88,635	90,678
機械及び装置(純額)	2 20,238	2 18,498
車両運搬具	416	392
減価償却累計額	396	379
車両運搬具(純額)	20	13
工具、器具及び備品	20,626	18,321
減価償却累計額	19,468	17,516
工具、器具及び備品(純額)	1,158	805
土地	2 11,487	2 11,487
リース資産	3	3
減価償却累計額	1	2
リース資産(純額)	1	0
建設仮勘定	455	826
有形固定資産合計	51,289	48,671
無形固定資産		
借地権	83	83
その他	42	39
無形固定資産合計	126	123

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2 13,481	2 14,240
関係会社株式	18,062	15,066
出資金	18	8
関係会社出資金	1,878	4,974
長期貸付金	13	11
従業員長期貸付金	45	36
関係会社長期貸付金	-	406
長期前払費用	51	38
繰延税金資産	-	1,637
その他	1,310	1,243
貸倒引当金	49	26
投資その他の資産合計	34,812	37,636
固定資産合計	86,228	86,431
資産合計	158,590	166,129
負債の部		
流動負債		
支払手形	352	4 523
買掛金	1 31,718	1 36,856
短期借入金	10,700	11,483
1年内返済予定の長期借入金	2 5,308	2 4,315
1年内償還予定の社債	3,000	-
リース債務	0	0
未払金	1, 2 3,351	1 3,929
未払費用	1,722	1,941
未払法人税等	47	1,931
前受金	480	323
預り金	1 2,707	1 3,542
従業員預り金	2 780	2 758
前受収益	50	44
設備関係支払手形	0	2
資産除去債務	18	-
その他	7	369
流動負債合計	60,246	66,021
固定負債		
社債	13,000	13,000
長期借入金	2 15,339	2 16,020
リース債務	0	0
繰延税金負債	295	-
退職給付引当金	3,558	4,265
役員退職慰労引当金	426	404
長期預り金	2 4,518	2 3,402

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
長期前受収益	423	381
資産除去債務	202	199
関係会社投資等損失引当金	-	1,305
固定負債合計	37,765	38,978
負債合計	98,012	104,999
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,983	20,983
資本剰余金		
資本準備金	18,528	18,528
その他資本剰余金	295	295
資本剰余金合計	18,824	18,824
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	254	265
繰越利益剰余金	20,493	20,838
利益剰余金合計	20,747	21,104
自己株式	854	857
株主資本合計	59,700	60,053
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	877	1,075
評価・換算差額等合計	877	1,075
純資産合計	60,578	61,129
負債純資産合計	158,590	166,129

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	1 149,510	1 161,788
売上原価		
製品期首たな卸高	3,509	5,532
当期製品製造原価	1 122,359	1 126,643
製品購入高	1 8,957	1 9,742
他勘定受入高	2, 4 1,914	2, 4 2,646
合計	136,740	144,565
他勘定振替高	3, 4 6	3, 4 7
製品期末たな卸高	5,532	4,882
原価差額	220	872
製品売上原価	4 131,421	4 140,548
売上総利益	18,088	21,239
販売費及び一般管理費	5, 6 14,499	5, 6 15,060
営業利益	3,589	6,179
営業外収益		
受取利息	1 5	1 13
受取配当金	1 1,375	1 1,158
その他	216	189
営業外収益合計	1,597	1,362
営業外費用		
支払利息	1 607	1 538
社債利息	191	211
為替差損	136	94
その他	326	245
営業外費用合計	1,261	1,090
経常利益	3,925	6,452
特別利益		
固定資産売却益	7 0	7 6
投資有価証券売却益	32	-
関係会社清算益	-	238
その他	-	5
特別利益合計	32	250
特別損失		
固定資産売却損	8 1	8 0
固定資産除却損	251	326
投資有価証券評価損	168	0
関係会社株式評価損	-	2,527
関係会社投資等損失引当金繰入額	-	1,305
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	141	-
震災損失	9 62	-
貸倒引当金繰入額	5	-
その他	7	27
特別損失合計	638	4,187
税引前当期純利益	3,319	2,515
法人税、住民税及び事業税	42	2,051
法人税等調整額	1,109	1,316
法人税等合計	1,151	735
当期純利益	2,167	1,780

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		79,103	63.5	80,740	63.7
労務費	1	11,848	9.5	12,352	9.8
経費	2	33,500	27.0	33,559	26.5
当期総製造費用		124,453	100.0	126,652	100.0
期首半製品・仕掛品た な卸高		3,454		5,160	
他勘定受入高		0		0	
合計		127,907		131,813	
他勘定へ振替	3	387		223	
期末半製品・仕掛品た な卸高		5,160		4,945	
当期製品製造原価		122,359		126,643	

(注)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1	このうち、退職給付費用 679百万円	このうち、退職給付費用 653百万円
2	このうち、 外注加工費及び下請作業費 11,163百万円 減価償却費 6,983百万円	このうち、 外注加工費及び下請作業費 11,447百万円 減価償却費 6,449百万円
3	貯蔵品、有形固定資産への振替高 387百万円 販売費及び一般管理費への振替高 0百万円	貯蔵品等への振替高 223百万円 販売費及び一般管理費への振替高 0百万円
4 原価計算 の方法	スチール部門・プレス = 工程別組別総合原価計算 部門・造機部門 また、原価差額は、期末にたな卸資産及び売上原価に 配分して調整しています。	スチール部門・プレス = 工程別組別総合原価計算 部門・造機部門 また、原価差額は、期末にたな卸資産及び売上原価に 配分して調整しています。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	20,983	20,983
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	20,983	20,983
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	18,528	18,528
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	18,528	18,528
その他資本剰余金		
当期首残高	295	295
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	295	295
資本剰余金合計		
当期首残高	18,824	18,824
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	18,824	18,824
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	328	254
当期変動額		
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額	-	19
固定資産圧縮積立金の取崩	73	8
当期変動額合計	73	10
当期末残高	254	265
繰越利益剰余金		
当期首残高	18,732	20,493
当期変動額		
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の変動額	-	19
固定資産圧縮積立金の取崩	73	8
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,167	1,780
当期変動額合計	1,761	345
当期末残高	20,493	20,838

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	19,060	20,747
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,167	1,780
当期変動額合計	1,687	356
当期末残高	20,747	21,104
自己株式		
当期首残高	144	854
当期変動額		
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	709	3
当期末残高	854	857
株主資本合計		
当期首残高	58,723	59,700
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,167	1,780
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	977	353
当期末残高	59,700	60,053
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,260	877
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,382	197
当期変動額合計	1,382	197
当期末残高	877	1,075
評価・換算差額等合計		
当期首残高	2,260	877
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,382	197
当期変動額合計	1,382	197
当期末残高	877	1,075
純資産合計		
当期首残高	60,983	60,578
当期変動額		
剰余金の配当	480	1,423
当期純利益	2,167	1,780
自己株式の取得	710	3
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,382	197
当期変動額合計	404	550
当期末残高	60,578	61,129

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・半製品・原材料・仕掛品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

ロールは個別法、その他は移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物・機械及び装置

スチール部門等は定額法、プレス部門及び造機部門は定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用していません。

構築物・車両運搬具・工具、器具及び備品

定率法を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 10～47年

構築物 10～40年

機械及び装置 9～14年

車両運搬具 4～6年

工具、器具及び備品 2～10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（5年間）に基づく定額法を採用しています。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しています。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しています。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。

会計基準変更時差異は、退職給付信託設定後の残高を15年による按分額で費用処理しています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間年数（主として15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しています。

(3) 役員退職慰労引当金

役員及び執行役員の退職慰労金の支給に備えるため、内部規程に基づく期末要支給額を計上しています。

(4) 関係会社投資等損失引当金

関係会社の投資等の損失に備えるため、当該会社の資産内容を勘案し損失負担見込額を計上しています。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しています。なお、為替予約及び通貨スワップについて振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりです。

a. ヘッジ手段...為替予約及び通貨スワップ

ヘッジ対象...外貨建債権及び外貨建予定取引

b. ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金利息

(3) ヘッジ方針

取締役会で決定された基本方針に基づく社内規程により、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしています。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額を基礎にして判定しています。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しています。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しています。

【追加情報】

「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の適用

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債で、科目を区分掲記したものの以外のもは次のとおりです。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
受取手形	48百万円	60百万円
売掛金	19,689	21,587
未収入金	2,461	2,736
流動負債		
買掛金	12,428	14,552
未払金	1,278	1,459
預り金	2,588	2,747

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりです。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	9,223百万円 (5,880百万円)	8,122百万円 (5,437百万円)
構築物	1,371 (1,371)	1,138 (1,138)
機械及び装置	11,642 (11,642)	9,531 (9,531)
土地	3,791 (2,412)	3,770 (2,412)
計	26,030 (21,307)	22,562 (18,519)

担保付債務は、次のとおりです。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	64百万円 (64百万円)	48百万円 (48百万円)
未払金	63 (-)	- (-)
長期借入金	94 (94)	46 (46)
長期預り金	3,024 (-)	2,782 (-)
計	3,246 (159)	2,877 (94)

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しています。

また、上記のほか、投資有価証券の前事業年度末873百万円及び当事業年度末798百万円は、金融機関との間に社内預金引当信託契約を結び信託財産として供しています。社内預金残高は、前事業年度末780百万円及び当事業年度末758百万円です。

3 保証債務

関係会社及び従業員について、金融機関からの借入に対し次のとおり債務保証を行っています。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
青島トピー機械有限公司(借入債務)	1,014百万円	913百万円
従業員(住宅融資借入債務)	772	601
計	1,787	1,515

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしています。なお、当期の末日は金融機関が休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれています。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	68百万円
支払手形	-	109

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社との取引に係るものは次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	54,298百万円	55,863百万円
当期製品製造原価に含まれる原材料購入高	51,732	52,384
製品購入高	2,774	4,686
受取利息	4	13
受取配当金	1,117	857
支払利息	20	7

2 他勘定受入高は、原材料、貯蔵品等の振替高です。

3 他勘定振替高は、販売費及び一般管理費等への振替高です。

4 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価（他勘定受入高及び他勘定振替高）に含まれています。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	8百万円	260百万円

5 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度51%、当事業年度53%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度49%、当事業年度47%です。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
運送費	6,092百万円	6,727百万円
従業員給与手当	3,180	3,251
退職給付費用	963	971
役員退職慰労引当金繰入額	104	115
福利厚生費	561	630
旅費交通費	362	377
減価償却費	219	182
その他	3,014	2,803
計	14,499	15,060

6 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	1,245百万円	1,271百万円

7 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
機械及び装置	0百万円	6百万円

8 固定資産売却損の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	0百万円	- 百万円
機械及び装置	0	0
計	1	0

9 東日本大震災により被災した建物等の損害及び復旧に要する費用です。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)1.2	505	3,037	1	3,542
合計	505	3,037	1	3,542

(注)1. 普通株式の自己株式数の増加3,037千株は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得3,000千株及び単元未満株式の買取り37千株による増加です。

2. 普通株式の自己株式数の減少1千株は、単元未満株式の売渡しによる減少です。

当事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)1.2	3,542	16	0	3,558
合計	3,542	16	0	3,558

(注)1. 普通株式の自己株式数の増加16千株は、単元未満株式の買取りによる増加です。

2. 普通株式の自己株式数の減少0千株は、単元未満株式の売渡しによる減少です。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

造機部門における車両運搬具です。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理により、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	45	34	10
その他	618	443	174
合計	663	477	185

(単位：百万円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	33	29	4
その他	409	336	72
合計	442	365	77

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	112	64
1年超	80	16
合計	193	80

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	286	114
減価償却費相当額	272	107
支払利息相当額	7	3

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっています。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	389	33
1年超	62	54
合計	451	88

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成23年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	760	1,150	390

当事業年度(平成24年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	760	1,137	376

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
子会社株式	12,593	12,444
関連会社株式	2,527	0

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めていません。

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	602百万円	661百万円
事業税否認	31	149
棚卸資産	319	380
退職給付引当金	1,419	1,530
役員退職慰労引当金	169	141
関係会社株式評価損	373	1,210
関係会社出資金評価損	279	244
関係会社投資等損失引当金	-	455
減損損失	114	100
会員権評価損	102	77
退職給付信託設定に伴う資産抛出額	294	258
繰越欠損金	554	-
その他	984	999
繰延税金資産小計	5,244	6,212
評価性引当額	1,518	1,276
繰延税金資産合計	3,726	4,936
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	168	143
その他有価証券評価差額金	582	578
その他	1,465	1,385
繰延税金負債合計	2,217	2,107
繰延税金資産の純額	1,509	2,829

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	39.9%	39.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0	4.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	13.6	20.4
住民税均等割等	0.7	0.9
試験研究費に係る法人税額の特別控除	-	8.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	13.6
税効果未認識項目	4.1	7.0
その他	0.6	5.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.7	29.2

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の39.9%から、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.3%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については34.9%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は266百万円減少し、法人税等調整額は348百万円、その他有価証券評価差額金は82百万円それぞれ増加しています。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	255円36銭	257円70銭
1株当たり当期純利益金額	9円3銭	7円50銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(百万円)	2,167	1,780
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,167	1,780
期中平均株式数(千株)	240,023	237,225

(重要な後発事象)

「1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」の内容と同一であるため記載していません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		投資有価証券	その他有価証券	トヨタ自動車(株)
		(株)みずほフィナンシャルグループ	8,890,035	1,200
		(株)みずほフィナンシャルグループ(優先株式)	1,000,000	1,000
		スズキ(株)	387,176	765
		N K S Jホールディングス(株)	279,250	516
		(株)横浜銀行	1,058,520	438
		日鐵商事(株)	1,366,000	367
		いすゞ自動車(株)	671,548	325
		日立建機(株)	142,000	260
		Magnetto Wheels S.p.A.	1,000,000	252
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	560,150	230
		伊藤忠商事(株)	241,500	218
		その他63銘柄	3,473,057	2,023
		計	20,929,917	14,240

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	40,145	351	188	40,308	25,862	1,027	14,445
構築物	13,173	304	139	13,338	10,744	479	2,594
機械及び装置 (注) 1. 2	108,874	2,644	2,341	109,177	90,678	4,132	18,498
車両運搬具	416	9	33	392	379	15	13
工具、器具及び備品 (注) 2	20,626	681	2,986	18,321	17,516	966	805
土地	11,487	-	-	11,487	-	-	11,487
リース資産	3	-	-	3	2	0	0
建設仮勘定	455	4,062	3,692	826	-	-	826
有形固定資産計	195,183	8,053	9,381	193,856	145,184	6,622	48,671
無形固定資産							
借地権	83	-	-	83	-	-	83
その他	45	-	-	45	5	3	39
無形固定資産計	128	-	-	128	5	3	123
長期前払費用(注) 3, 4	80	1	0	81	43	15	38
	(-)	(0)	(0)	(0)			

(注) 1. 主な増加額

	部門	主な設備(百万円)	
機械及び装置	プレス事業部	スチールホイール工場生産性向上設備	393
	造機事業部	M9ライン老朽化対応及び生産安定化設備	162
	スチール事業部	発光分光分析装置	105

2. 主な減少額

	部門	主な設備(百万円)	
機械及び装置	スチール事業部	大形工場附属設備等	230
工具、器具及び備品	プレス事業部	金型	2,495

3. 長期前払費用の償却基準.....契約上の定め又は税法上の規定に基づき償却しています。

4. 長期前払費用の()内の金額は内数で、前払保険料、前払リース料の期間配分に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、償却累計額及び当期償却費の算定には含めていません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注)	77	43	9	48	63
役員退職慰労引当金	426	115	136	-	404
関係会社投資等損失引当金	-	1,305	-	-	1,305

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は洗替処理等による戻入額です。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ.現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	3
預金	
当座預金	8,038
普通預金	0
小計	8,039
合計	8,042

ロ.受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)アムロン	97
明光化学(株)	84
岡本物流(株)	78
トピー海運(株)	60
(株)加藤製作所	53
その他	144
合計	517

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年 4月	217
5月	137
6月	98
7月	63
8月	0
9月	-
10月以降	-
合計	517

八．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
トピー実業(株)	15,626
トピーアメリカ, INC.	4,832
日立建機(株)	3,911
いすゞ自動車(株)	2,639
キャタピラージャパン(株)	2,391
その他	19,913
合計	49,315

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 （百万円）	当期発生高 （百万円）	当期回収高 （百万円）	当期末残高 （百万円）	回収率（％）	滞留期間（日） (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B)
40,789	169,152	160,626	49,315	76.5	366 97.5

（注）消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれています。

二．商品及び製品

品目	金額（百万円）
製品	
条鋼	1,395
ホイール	1,933
プレス製品（自動車用プレス部品他）	70
レール付属品	42
建設機械部品、履帯組立部品（ブルドーザー用シュー、カッティングエッジ他）	1,131
その他	308
小計	4,882
半製品	
鋳片	2,275
その他	7
小計	2,282
合計	7,165

ホ．仕掛品

品目	金額（百万円）
鋼材（鋼材未矯正品）	289
ホイール	1,706
プレス仕掛品他	387
建設機械部品、レール付属品	155
その他	124
合計	2,662

ヘ．原材料及び貯蔵品

区分	金額（百万円）
原材料	
製鋼用主副原料（銑鉄、鋼屑、耐火物他）	778
ホイール、プレス用材料及び金型材料（アルミ他）	629
建設機械、レール付属品用材料（異形鋼他）	1,371
その他	78
小計	2,857
貯蔵品	
ロール、予備品、金型他	1,908
一般貯蔵品	252
小計	2,160
合計	5,018

固定資産

関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
トピーアメリカ, I N C .	8,923
新日本製鐵(株)	1,861
トピー実業(株)	942
北越メタル(株)	760
明海発電(株)	400
その他(13社)	2,178
合計	15,066

流動負債

イ.支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)メタルワン建材	144
N O K(株)	104
扶桑工業(株)	90
明鋳(株)	63
愛知陸運(株)	62
その他	58
合計	523

期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年 4月	240
5月	121
6月	74
7月	63
8月	23
9月	-
10月以降	-
合計	523

ロ．買掛金

相手先	金額（百万円）
トヨタ自動車(株)	7,642
トピー実業(株)	7,361
トピー海運(株)	2,428
(株)三和部品	2,424
伊藤忠丸紅鉄鋼(株)	1,445
その他	15,554
合計	36,856

(注) 買掛金支払信託に係わる契約に基づきみずほ信託銀行(株)に支払いの一部を信託していますが、取引先の名称を記載しています。

ハ．短期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)みずほコーポレート銀行	3,883
(株)りそな銀行	2,200
(株)横浜銀行	1,700
農林中央金庫	1,200
(株)三菱東京UFJ銀行	1,000
その他	1,500
合計	11,483

固定負債

イ．社債

13,000百万円

内訳は「1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 連結附属明細表 社債明細表」に記載しています。

ロ．長期借入金

相手先	金額（百万円）
(株)みずほコーポレート銀行	4,984
みずほ信託銀行(株)	1,852
明治安田生命保険(相)	1,837
(株)りそな銀行	1,753
中央三井信託銀行(株)	1,012
その他	4,580
合計	16,020

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
一単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・売渡し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・売渡手数料	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社本店 (特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 - 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.topy.co.jp
株主に対する特典	交通傷害保険など

(注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求する権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

2. 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行は、平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を「三井住友信託銀行株式会社」に変更したため、以下のとおり、商号・住所等が変更となっております。

取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第117期）（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第118期第1四半期）（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）平成23年8月10日関東財務局長に提出

（第118期第2四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月10日関東財務局長に提出

（第118期第3四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月10日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年7月1日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書です。

(5) 訂正発行登録書

平成22年6月29日提出の発行登録書（株券・社債券等）に係る訂正発行登録書

平成23年6月29日関東財務局長に提出

平成23年7月1日関東財務局長に提出

平成23年8月10日関東財務局長に提出

平成23年11月10日関東財務局長に提出

平成24年2月10日関東財務局長に提出

平成22年6月29日提出の発行登録書（新株予約権証券）に係る訂正発行登録書

平成23年6月29日関東財務局長に提出

平成23年7月1日関東財務局長に提出

平成23年8月10日関東財務局長に提出

平成23年11月10日関東財務局長に提出

平成24年2月10日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月28日

トピー工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村山 憲二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 麻生 和孝 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているトピー工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トピー工業株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、トピー工業株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、トピー工業株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月28日

トピー工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村山 憲二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 麻生 和孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているトピー工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第118期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トピー工業株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。